VOX

Valvetronix

ToneLab



Ⓙ①

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の 2 つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的は注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください



この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **ＡＣ/ＡＣパワーサプライのプラグは、必ずＡＣ１００Ｖの電源コンセントに差し込む。**
- **AC/ACパワーサプライのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、AC/ACパワーサプライのプラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切ってAC/ACパワーサプライのプラグをコンセントから抜く。**
  ○ AC/ACパワーサプライが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへ修理を依頼してください。

- **本製品を分解したり改造したりしない。**

- **修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。**
- **ＡＣ/ＡＣパワーサプライのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ＡＣ/ＡＣパワーサプライのコードの上に重いものを乗せない。**
  コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**

- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**

- **雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に液体の入ったもの（水や薬品等）を置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**

- **濡れた手で本製品を使用しない。**



この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります

- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**

- **AC/ACパワーサプライをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。**



- **長時間使用しないときは、AC/ACパワーサプライをコンセントから抜く。**



- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリ内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはMIDIデータ・ファイラーなどに保存しておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より１ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
   - ・消耗部品（スピーカー、真空管、電池など）の交換。
   - ・お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - ・天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - ・故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - ・不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - ・保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - ・本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より３ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめ最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへご相談ください。運送にかかる往復の費用はお客様の負担とさせていただきます。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。
本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。 記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

VOX Valvetronix
ToneLab
保証書
本保証書は上記の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げ日から満1年の間に万一故障が発生した場合は、お買い上げの販売店に製品と本保証書をご持参の上、修理を依頼してください。

お買い上げ日　　　年　　月　　日

販売店名

アフターサービス

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

- ● サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内 TEL 03(3799)9085
- ● 名古屋営業所:〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町100-51 TEL 052(832)1419
- ● 大阪営業所: 〒531-0072 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F TEL 06(6374)0691
- ● 福岡営業所: 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-25第2池田ビル1F TEL 092(531)0166

輸入販売元: KORG Import Division
〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-15-12
URL:http://www.korg.co.jp/KID/

＊ Valve Reactor技術は米国特許を取得しています。他国特許申請中です。（2003年3月現在）
＊ 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。
＊ MIDIは社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。

クイックスタート

—「説明は後にして、とにかくギターを弾かせて!」と言いたい人のためのガイド —

取扱説明書を読むのは塗ったペンキが乾くのを待つときのように「あくび」が出てしまう、という人もきっと多いことでしょう。そこで、ToneLabを一刻も早く使ってみたい人のためにこのクイックスタートを用意しました。
早速、ToneLabのサウンドをチェックしてください。そして、アンプやエフェクト・セクションのツマミやスイッチを操作して音作りの最初の一歩に踏み込みましょう。

HINT　本書にはToneLabを最大限に活用する上で役に立つ説明が載っています。このクイックスタートの手順のように弾いて、とりあえずホッとしたら、必ず本書の残りをお読みください。

HINT　本書の巻末にToneLabのトップ・パネル、リア・パネル、ディスプレイの図がありますので、そちらを見ながら操作してください。

セットアップ

1. ToneLabをミキサーやレコーダーに接続するときは、リア・パネルの[AMP/LINE]スイッチ(9.1)を" LINE "に設定し、OUTPUT端子L/MONO, R(9.2)を、ミキサーやレコーダーの入力端子に接続します。またヘッドホンでモニターするときはPHONES端子(5.2)に接続します。
   ToneLabをライブなどで使用するためにギター・アンプと接続するときは、リア・パネルの[AMP/LINE]スイッチを" AMP "に設定し、OUTPUT L/MONO, R端子を、ギター・アンプの入力端子に接続します。

   NOTE　出力先の入力端子がモノラルの場合は、OUTPUT L/MONO端子を接続してください。

   HINT　図はリア・パネル9周辺をご覧ください(本書巻末)。

2. 本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミ(9.3)を左に回し切り、ボリュームを0にします。
3. 付属のAC/ACパワー・サプライをリア・パネルのAC9V電源端子(6.1)に接続してから、プラグをコンセントに差し込みます。
4. ギターをフロント・パネルの[INPUT](インプット)端子(5.1)に接続します。
5. [STANDBY]スイッチ(6.2)をオンにして電源を入れます。(電源立ち上げ時にノイズが聞こえないようにアンプやミキサーの音量は十分に下げておいてください。)
6. アンプやミキサー、本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミ(9.3)を適宜上げて、音量を調整します。

   NOTE　真空管が温まるまでの数秒間、音が出ない場合があります。これは故障ではありません。

プログラムのサウンドを聴く

7. BANK [▲]または[▼]スイッチ(3.2)を押してバンク1〜24を選びます。
バンク・ディスプレイ(3.1)の数字が点滅し切り替わるのが確認できます。

HINT ToneLabは96プログラムがあり、24バンクにそれぞれ4チャンネル(24x4=96)を持ちます。工場出荷時には1〜12バンクに48のプログラムが収録されています(13〜24バンクのプログラムは1〜12バンクのプログラムと同内容です)。これらはプログラム・セレクト・モードで選択することができます。この他、マニュアル・モードがあり、アンプ・セクションのセレクター、ツマミの設定(位置)がそのまま反映されます。

HINT 図はディスプレイ3「バンク/マニュアル/ライト/チューナー/チャンネル・セクション」をご覧ください(本書巻末)。

8. CHANNEL SELECT [1]〜[4]スイッチ(3.3)を押してチャンネルを選びます。
選んだチャンネルが点灯し、バンク・ディスプレイの数字も点灯に変わります。これでプログラムが選択できました。ギターを弾いてください。
例えば1-2(バンク1、チャンネル2)のプログラムを選ぶには、BANK [▲]または[▼]スイッチを押してバンク・ディスプレイに" 1 "を表示し、CHANNEL SELECT [2]スイッチを押してスイッチを点灯させます。
なお、同じバンクのプログラムはCHANNEL SELECT [1]〜[4]スイッチを押すだけで切り替わります。他のバンクのプログラムを選ぶ場合は、手順7、8の順番で選びます。

NOTE プログラムを選ぶことができない場合は、プログラム・セレクト・モード以外が選ばれています。「プログラム・セレクト・モードへの入り方」(p.14)を参照してモードを切り替えてください。

HINT プリセット・プログラムには、ファットで高ゲインの弾きやすいリードギター・サウンドや、フロント(またはリズム)・ピックアップにベストな瑞々しいクリーンなサウンド、またギターのリード(ブリッジ)・ピックアップにヘヴィーなリフがピッタリなファットで攻撃的なモダン・クランチ・サウンドなど、さまざまなプログラムが入っています。プリセット・プログラムのリストはp.51をご覧ください。

PEDAL オプションのフット・コントローラでプログラムを切り替えることができます。

音作りをする

9. 音作りはアンプ、エフェクト・セクションのツマミやスイッチを使用します。
アンプ・セクションの操作は、あなたが慣れ親しんでいるギター・アンプでサウンドを変化させるのとあまり変わりません。[GAIN](1.3)、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE](1.5〜1.8)や、MASTERにあたる[VR GAIN](1.4)などトップ・パネルのツマミを適宜調整していきます。ベストな歪みを得るには、できるだけ[VR GAIN]を上げることです。[CH VOLUME](1.9)はValve Reactorの歪みなどを含むトータルなサウンドを維持したまま音量を変化させます。[AMP TYPE](1.1)、[CABINET TYPE]セレクター(1.2)でタイプを変えることは、突然目の前に異なるギター・アンプが現れるかのようです。

HINT アンプ部だけで音作りをする場合は、[PEDAL]セレクター(2.2)を"OFF"にしてPEDALエフェクトをオフにします。そして[TAP]スイッチ(2.4)を1秒以上押してMODULATION、DELAY、REVERBの各エフェクトをバイパスします(各エフェクトの点灯していたLEDが点滅します)。

HINT アンプ・モデルとキャビネット・モデルとの推奨する組み合わせ例はp.30をご覧ください。

HINT オリジナル・アンプのサウンドを再現する場合、マスター・ボリューム・コントロールがないビンテージ・タイプのモデル(AC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK 68P、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10)では[VR GAIN]を最大に上げてください。マスター・ボリューム・コントロール付きのモダン・タイプのモデルではマスター・ボリューム・コントロールを調整するのと同じように[VR GAIN]を調整します。[VR GAIN]の設定が低いときはプリアンプ・タイプのディストーションがかかり、高く設定するとプリアンプがValve Reactorに負荷をかけてクリップし始め、Valve Reactorの歪みと暖かみが加わります。

HINT 図はトップパネル[1]周辺をご覧ください(本書巻末)。

10. エフェクトは、アンプの前に配置されているPEDALエフェクトと、キャビネットの後に配置されているMODULATION、DELAY、REVERBの各エフェクトがあります。
MODULATION、DELAY、REVERBの各エフェクトをバイパスしている場合は、もう一度[TAP]スイッチ(2.4)を押して解除します。例えばMODULATIONエフェクトのCHORUSを使用する場合、MODULATIONの[TYPE]スイッチ(2.3)を数回押してCHORUSのLEDを点灯させます。このとき[TYPE]スイッチが点灯していることを確認してください。この状態で右側の3つのバリュー・ツマミ[1]〜[3](2.5)を回すと、CHORUSの各設定ができ、順にモジュレーションのスピード、エフェクト音のミックス量、モジュレーションの深さがそれぞれ調整できます。DELAY、REVERBの各エフェクトも同様の操作で調整できます。なお、DELAYは[TAP]スイッチ(2.4)を2回押すことによって、その間隔でディレイ・タイムを調整することができます。

HINT エフェクトの設定によっては出力音に歪みが生じる場合があります。この場合[CH VOLUME](1.9)を下げて調整してください。

HINT 図はトップパネル[2]周辺をご覧ください(本書巻末)。

設定を残しておきたい場合はp.18を参照してプログラムを保存するか、巻末の「プログラム・シート」に設定内容を書き込んでおいてください。

目　次

はじめに

ようこそ!

このたびは **VOX Valvetronix *ToneLab*** をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。ToneLabはレコーディングからライブ、またはヘッドホンでの練習まで幅広い用途でお使いいただけます。チューブアンプをモデリングしたその暖かみと調和のとれたサウンドをお楽しみください。

本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保管してください。

おもな特長

- ToneLabは、Valve Reactor技術を採用し、通常プリアンプで使われている小型3極真空管12AX7(ECC83)を使ったClass A、Class ABのパワーアンプ回路することによって、「本物のパワーアンプ・サウンド」を作り出し、オリジナル・アンプの感触やトーンを生み出します。
- 高度なモデリング・テクノロジーによるアンプ、キャビネット、エフェクトを搭載しています。
  往年のヴィンテージ・アンプや高価なハイエンド・チューブアンプなどのサウンドを、アンプ・タイプ16、キャビネット・タイプ10で再現できるほか、組み合わせによってはいままでにないアンプ・サウンドを作り出すことも可能です。
- ハイクオリティなエフェクトを内蔵し、ToneLabだけで音作りが完結できます。アンプの手前にペダル・エフェクト 10タイプ、キャビネットの後ろにモジュレーション・エフェクト 5タイプ、ディレイ・エフェクト 3タイプ、リバーブ・エフェクト 3タイプを持ち、各タイプごとに1つずつを同時に使用できます。その他ノイズ・リダクションが使用できます。
- アンプやエフェクト・モデルを駆使したサウンドを1プログラムとして、96個のサウンドをプログラムとして保存することができます。プリセットとしてあらかじめ48種類のプログラムが用意されています。
- マニュアル・モードを装備し、単体のギター・アンプのように使用することができます。アンプ・セクションのツマミが指している物理的な位置がそのままサウンドに反映されます。
- オート・クロマチック・チューナーを内蔵し、チューニングが可能です。
- オプションのフットコントローラを接続することによって、足元でプログラムの切り替えやエフェクトのオン/オフ、ディレイ・タイムのタップ・テンポが操作できます。また、ワウ・ペダルやボリューム・ペダルのコントロールも可能になり、ライブ・パフォーマンスなどに威力を発揮します。
- デジタル出力端子や、MIDI IN、OUT端子を装備し、拡張性に優れています。
- ToneLabのさまざまなパラメータを視覚的に編集したり、プログラムの保存、管理などが行えるエディタ/ライブラリアン・ソフトウェア「ToneLab Sound Editor」を使用することができます。
  入手方法や動作環境等の詳細については、コルグお客様相談窓口にお問い合わせください。
  なお、下記のWeb サイトにてダウンロードすることができます。
  * http://www.korg.co.jp/KID/VOX/tonelab/
  http://www.voxamps.co.uk/ http://www.valvetronix.com/

Valve Reactor (バルブ・リアクター) 技術について

バルブ･リアクター技術とは、VOXアンプAD60/120VTではじめて採用された技術です。
ToneLabは、このValve Reactor回路をライン録音用にチューン･アップしたシステムを搭載しています。

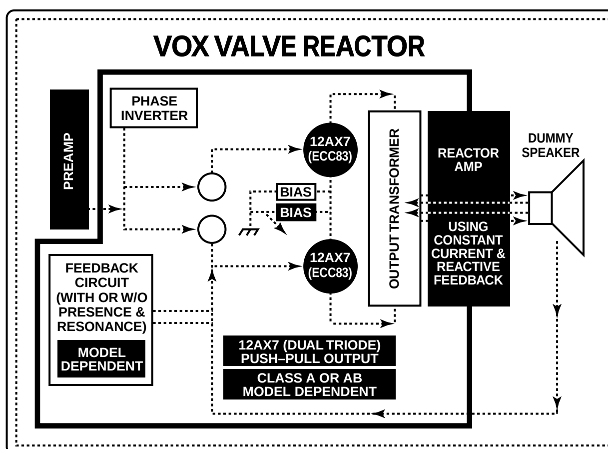
通常のライン録音用のモデリング･エフェクターは、実際には直接スピーカーを接続して使用することが無いため、パワーアンプ回路、OUTPUTトランスおよびスピーカーは搭載していません。つまり、プリアンプ回路のみによって構成されています。
ところが、本当のチューブアンプ･サウンドは、プリアンプのみでなくパワーアンプの歪みや、実際にパワーアンプがスピーカーを駆動した際に発生するインピーダンス変動によって作り出されます。

ToneLabは、実際に低いワッテージのチューブ･パワー･アンプ回路と、OUTPUTトランスをソリッドステート部品でエミュレーションしたバーチャルOUTPUTトランス(特許出願中)、それにスピーカーのインピーダンス変動をシミュレーションしたダミースピーカー回路を搭載しています。つまり、出力パワーは小さいながらも、実際のフル･チューブアンプと同じ回路構成になっています。

音作りとトーン･シェーピングのほとんどはデジタル領域で行いますが、Valve Reactorパワーアンプは100%アナログです。ギター信号がアナログ領域であるパワーアンプ段を通過することによって、モデルとなったオリジナル･アンプの感触やトーンを作り出す上で重要な役割を果たすことになります。
Valve Reactorのパワー段は真のチューブ、プッシュ/プル式パワーアンプのミニチュア版です。これは12AX7(ECC83)チューブ(デュアル三極管、つまり2つの真空管を一つにしたもの)を使用し、出力トランスフォーマーを搭載した真のチューブアンプと似ているといえます。

ToneLabのValve Reactorパワーアンプの出力は、内蔵のダミースピーカー回路の絶えず変化しているインピーダンス曲線を「読み取り」、この情報をバーチャルOUTPUTトランスフォーマーにフィードバックするように設計されています。この点も実際のチューブアンプと似ています。この情報によってアンプのチューブ段での動作がスピーカー負荷(インピーダンス)に応じて変化します。これもまた、真のチューブアンプのサウンドを形成する大切な要因となっています。

生き生きとしたチューブサウンドを生み出すだけでなく、モデルとなったアンプのフル･チューブ･パワー段に独特の、様々な「回路特性」をシミュレートすることができます。この特性とは、A級、AB級、プレゼンス、レゾナンス(ロー･エンド)回路(いずれも一部チューブアンプの持つ負帰還回路に見られるもの)、パワー出力などです。このような特性を調整することにより、アンプ･モデルの一つ一つのサウンドが忠実に再現できるのです。この点が、「あのサウンドに近いけどやっぱり本物じゃない」という巷のデジタル･モデリング製品とは異なる部分です。米国特許取得済みのこのパワーアンプ技術はVOX Valvetronixだけのものです。

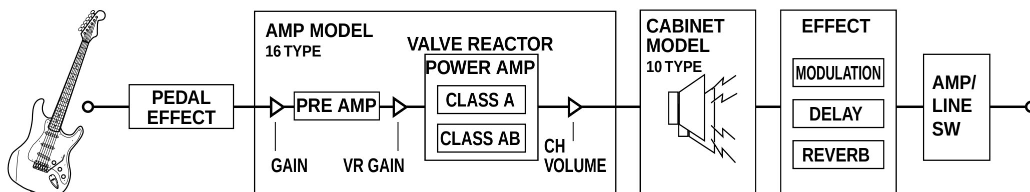


ToneLabの概要

ToneLabの全体像を確認しておきましょう。

信号経路

ToneLabに入力された信号は以下の順序で通過していきます。
「ギタリストのためのパネル・ツアー(各部の名称と機能)」(p.4)の説明と照らし合わせてご覧ください。



構　成

ToneLabは演奏や音作りをするためにプログラム・セレクトとマニュアルの2つのモードを持ちます。いずれかを選び演奏や音作りをしていきます。
その他、オプションのフット・コントローラやMIDIなどの設定はUTILITY、GLOBALに、プログラムの保存やチューナー機能はWRITE、TUNERにそれぞれ分類されています(これらは該当するスイッチを押すことによって機能を呼び出します)。

プログラム・セレクト・モード:

- 96のプログラムを選び、演奏および音作りをする。

マニュアル・モード:

- アンプ・セクションのすべてのツマミ位置がそのままサウンドに反映される、ギター・アンプのような感覚で演奏および音作りをする。

UTILITY (ユーティリティ):

- ノイズ・リダクション調整(値が大きいほどノイズを抑える効果が強くなる)。
- プログラムに名前を付ける。
- オプション・フット・コントローラのエクスプレッション・ペダルでコントロールする機能設定。

GLOBAL (グローバル):

- MIDIに関する設定。
- デジタル出力レベルの調整。

WRITE (保存):

- プログラムの保存。

TUNER (チューナー):

- オート・クロマチック・チューナーでのチューニング。

以上、ToneLabの技術や概要などいろいろと説明してきましたが、ToneLabについて知るには実際に音を出してみることです。まだ音を出していない人は、早速ギターを手にして、「クイックスタート」(p.iv)をガイドに、数々のサウンドを体験、探求してください。

ギタリストのためのパネル・ツアー（各部の名称と機能）

ここではToneLabのトップ、リア・パネル上のスイッチや端子類について説明します。

HINT　巻末にToneLabのトップ・パネル、リア・パネル、ディスプレイの図が載っていますのでご覧ください。

トップ・パネル

1 アンプ・セクション

アンプの設定を行ないます。

1.1 [AMP TYPE]（アンプ・タイプ）セレクター

アンプ・タイプを選びます。プリアンプ、パワーアンプの動作(A、AB級)、トーン・コントロールの特性や回路上の配置は、ここで選んだアンプのタイプに従って切り替わり、それぞれのアンプ特有の動作となります。アンプ・タイプは伝説的なVOX AC30TBXをはじめとするクラシックなチューブアンプを忠実に再現した16種類のモデルです(詳細はp.19を参照してください)。オリジナル・アンプのプリアンプ回路のゲイン/トーン特性を正確に再現しただけでなく、パワーアンプの動作（A、AB級）、負帰還回路など、重要なパワーアンプ段も入念に再現しています。

1.2 [CABINET TYPE](キャビネット・タイプ)セレクター

アンプのキャビネットの形状、スピーカのタイプや数などを再現した10種類のキャビネット・モデルから選びます。(詳細はp.28を参照してください。)

HINT　[AMP TYPE]、[CABINET TYPE]、[PEDAL]セレクターは、VOXの伝統を受け継いだ「チキン・ヘッド」の形をしたポインター（ツマミ）を使用しています。

プリアンプ・コントロール

1.3 [GAIN](ゲイン)コントロール

選択したアンプ・タイプのプリアンプ・ゲインを調整します。

1.4 [VR GAIN](バルブ・リアクター・ゲイン)コントロール

プリアンプからValve Reactor回路に出力するボリュームを調整します。
この設定によってValve Reactorの歪み量が変化します。(詳細はp.20を参照してください。)

NOTE　Valve Reactorの歪み量は、GAINコントロールによっても変化します。設定によっては殆ど歪まなくなります。

1.5 [TREBLE](トレブル)コントロール
1.6 [MIDDLE](ミドル)コントロール
1.7 [BASS](ベース)コントロール

高音、中音、低音の音色を調整します。選択したアンプ・タイプによって、異なった音色変化になります。

NOTE　アンプ・タイプによっては、この3つのコントロールをすべて左に回しきると、ほとんど音が出なくなるものがあります。

HINT　オリジナルのアンプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールをすべて使用しないものもありますが、それらのコントロールを無効にする代わりに、本機の3つのコントロールをすべて効果的に使用してオリジナルの音色に幅をもたせています。詳細はp.19の各アンプ・タイプの説明を参照してください。

パワーアンプ・コントロール

1.8　[PRESENCE](プレゼンス)コントロール

プレゼンスの量を調整します。
オリジナルのアンプにプレゼンス・コントロールがない場合は別の機能を持ちます。

NOTE　プレゼンスは、負帰還回路を持つパワーアンプの機能です。オリジナルのアンプにこの回路がない場合(VOX AC15、AC15TB、AC30、AC30TBなど)もありますし、負帰還回路を持っていてもプレゼンス・コントロールがない場合(BLACK 2x12)もあります。プレゼンス・コントロールのないアンプ・モデルでは、このコントロールつまみを使って別の機能を調整します。詳細はp.19の各アンプ・タイプの説明を参照してください。

1.9　[CH VOLUME](チャンネル・ボリューム)コントロール

トータルの音量を調整するボリュームです。Valve Reactor回路の歪み特性を含む音色を維持したまま音量調整をすることができます。

NOTE　エフェクトの設定によっては出力音に歪みが生じる場合があります。この場合、CH VOLUMEを下げて調整してください。

2　エフェクト・セクション

ペダル系エフェクト(PEDAL)は、アンプの前に接続されます。10種類のクラシックなペダル・エフェクト・モデルから選びます。
モジュレーション、ディレイ、リバーブは、キャビネットの後ろに配置されています。プロのレコーディング現場でも通常この3種類のエフェクトが同じように配置されています。

HINT　モジュレーション、ディレイ、リバーブをペダル・エフェクトのようにアンプの前に置かずに、後ろに配置している理由は、そのほうがサウンドがリアルで良く聞こえるためです。たとえばリバーブ・エフェクトはコンサートホールや部屋で生じるサウンド効果をシミュレートしたものです。このため、残響効果を生み出すには、信号経路の終わり近くで加えたほうがリアルで自然になるはずです。ディレイやモジュレーション・エフェクトも、やはり信号経路の最後に加えた方が自然です。また、クランチ・サウンドやハイ・ゲインのリード・サウンドを弾く場合、ROTARY、ROOMリバーブ、DELAYなどは信号にディストーションをかけてから加えた方が理にかなっています。

2.1　エフェクト・タイプLED

使用しているエフェクト・タイプを表示します(PEDALエフェクトではOFF以外のとき点灯します)。消灯しているときは、そのエフェクトはOFFになっています。

2.2　[PEDAL](ペダル)セレクター

ペダル系エフェクトを10種類から選びます。[PEDAL]セレクターを操作すると[TYPE]スイッチが点灯し、バリュー・ツマミ[1]〜[3]でペダル・エフェクトのパラメータが調整できます。ペダル・エフェクトを使用しないときは、OFFを選びます。(各エフェクトの説明はp.31〜を参照してください。)

2.3　[TYPE]（タイプ）スイッチ

各エフェクトのタイプを選びます。また、バリュー・ツマミ[1]〜[3]でエディットするエフェクトを選ぶときに使用します。

一度押すとスイッチが点灯し、そのエフェクトのパラメータをバリュー・ツマミ[1]〜[3]で調整できます。すでに点灯しているスイッチを押すとそのエフェクトのタイプを変更することができます。エフェクトを使用しない場合はエフェクト・タイプLEDが消灯するまで、何度か押します。

2.4　[TAP](タップ)スイッチ (HOLD: EFFECT BYPASS)

DELAY(ディレイ)エフェクトのディレイ・タイムを設定します。スイッチを2回押した間隔がタイムとして設定されます。スイッチは、設定したタイムで点滅します。

また、[TAP]スイッチを1秒以上押し続けると、MODULATION、DELAY、REVERBの3つのエフェクトがバイパスされます(バイパス時、点灯しているエフェクト・タイプLEDが点滅します)。

HINT　曲のテンポに合った正確なタイムを設定するには、曲の拍子に合わせてスイッチを数回押してください。

PEDAL　オプションのフット・コントローラを接続すると、足でタップしてディレイ・タイムを設定できます。

HINT　バイパスを解除するにはもう一度[TAP]スイッチを押します。

2.5　バリュー・ツマミ[1]〜[3]

プログラム・セレクト・モードとマニュアル・モードでは、エフェクトを調整します。[TYPE]スイッチで選択した(スイッチが点灯している)エフェクトが対象となります。コントロールされる内容はp.31〜を参照してください。(左からバリュー・ツマミ[1]〜[3]です。)

UTILITYやGLOBALでの各設定時、バリュー・ツマミ[3]を使って値を変えることができます。

NOTE　エフェクトの設定によっては出力音に歪みが生じる場合があります。この場合、CH VOLUMEを下げて調整してください。

3 バンク/マニュアル/ライト/チューナー/チャンネル・セクション

プログラムの選択とその表示、アンプやエフェクト・セクションで音作りしているパラメータ名とその値などを表示します。また、UTILITY、GLOBALの設定を行います。

3.1 バンク・ディスプレイ

プログラムのバンクを表示します。

3.2 BANK/VALUE [▲], [▼]スイッチ (MANUAL)

プログラム・セレクト・モードではバンクを選びます。UTILITY、GLOBALの各設定をするときはパラメータや値を変更します。
また、[▲]、[▼]を2つ同時に押すとマニュアル・モードに入ります。

3.3 CHANNEL SELECT/MENU & CURSOR [1/PREV], [2/NEXT], [3/◄], [4/►]スイッチ

プログラム・セレクト・モードでは各バンクのチャンネルを選びます。UTILITY、GLOBALの各設定をするときはメニューやパラメータを選びます。

3.4 [UTILITY](ユーティリティ)スイッチ

プログラムに名前を付けたり、ノイズ・リダクション、オプションのフット・コントローラに関する設定をします。

[UTILITY]スイッチを押してスイッチを点灯させ、[1/PREV]、[2/NEXT]スイッチを押すと、押すたびに下記の順でメニューが切り替わります。
メニュー選択後、バリュー・ツマミ[3]や[▲]、[▼]スイッチを使って値を変更します。

NR SENS:	ノイズ・リダクション	(p.17)
********:	プログラム名	(p.17)
EXP⊿:	エクスプレッション・ターゲット	(p.38)
EXP MIN:	エクスプレッション・ターゲット・レンジ(最小値)	(p.38)
EXP MAX:	エクスプレッション・ターゲット・レンジ(最大値)	(p.38)
EXP INIT:	エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定	(p.39)

3.5 [GLOBAL](グローバル)スイッチ

MIDIやデジタル出力に関する設定をします。

[GLOBAL]スイッチを押してスイッチを点灯させ、[1/PREV]、[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押すと、押すたびに下記の順でメニューが切り替わります。
メニュー選択後、バリュー・ツマミ[3]や[▲]、[▼]スイッチを使って値を変更します。メニューによってはさらに[3/◄]、[4/►]スイッチを使用します。

MIDI CH:	MIDIチャンネルの設定	(p.41)
PCHG OUT:	プログラム・チェンジ・メッセージの出力設定	(p.41)
CCHG I/O:	コントロール・チェンジ・メッセージの入出力設定	(p.41)
SYEX OUT:	システム・エクスクルーシブ・メッセージの出力設定	(p.42)
DUMP CUR:	現在のプログラム・データをMIDI OUT端子から出力	(p.43)
DUMP ALL:	本機の全てのデータをMIDI OUT端子から出力	(p.43)
DOUT LVL:	デジタル出力レベル	(p.45)

3.6　[WRITE/ENTER](ライト / エンター)スイッチ

音作りをした設定を保存するときに使用します。 (p.18)

3.7　[TUNER/CANCEL](チューナー / キャンセル)スイッチ

内蔵クロマチック・チューナーをオンまたはオフにします。

また、プログラムの保存を中止したり、GLOBALやUTILITYの設定操作を中止するときなどにも使用します。

3.8　ネーム・ディスプレイ

プログラム名、エフェクト名、パラメータ名等を表示します。

3.9　バルブ・アイコン

モデルとなったオリジナルのアンプで使用されているパワー管(パワー段で使用される真空管)の数と型番を表示します。

3.10 バリュー・ディスプレイ

パラメータの値を表示します。

表示されているパラメータの値が変更前の値(プログラムに保存されている値)と一致しているときは、[ORIG](オリジナル・バリュー)アイコンが表示されます。

プログラムのいずれかのパラメータが変更(エディット)された状態のとき、[EDIT](エディット)アイコンが表示されます。

4 バルブ

4.1　バルブ・ウィンドウ

真空管12AX7(ECC83)が内蔵されています。

NOTE　バルブ・カバーは、衝撃を与えると割れる場合があります。特に直接的な衝撃には注意してください。真空管も破損する危険性があります。また、バルブ・カバーが割れたときは、そのままにしておくと真空管の破損など故障の原因となりますので、修理をご依頼ください。

5 インプット / ヘッドホン (フロント・パネル)

5.1　INPUT端子

ギターを接続します。

5.2　PHONE端子（ステレオ）

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンの音量は、リア・パネル[LEVEL]ツマミで調整します。

リア・パネル

6 電源

6.1 ～AC9V

付属のAC/ACパワー・サプライを接続します。

6.2 [STANDBY]スイッチ

電源を入れたり、切ったりします。

7 MIDI

7.1 MIDI OUT端子

MIDIデータを送信する端子です。接続した外部MIDI機器をコントロールするときに使用します。

7.2 MIDI IN端子

MIDIデータを受信する端子です。接続した外部MIDI機器からコントロールするときに使用します。

8 ペダル

8.1 VOX BUS端子

オプションのフット・コントローラを接続します。

NOTE この端子には、専用のフット・コントローラ以外は、絶対に接続しないでください。

9 OUTPUT

9.1 [AMP/LINE]スイッチ

OUTPUT端子(S/P DIF OUT端子も含む)の接続先に応じて切り替えます。ミキサーやレコーディング機器等へ接続する場合やヘッドホンを使用する場合、または本機をパワーアンプに接続する場合は“ LINE ”へ、ギター・アンプに接続する場合は“ AMP ”に設定します。

9.2 OUTPUT端子(L/MONO, R)

アナログ出力端子(バランス/アンバランスTRS)です。モノラルで出力するときはL/MONOに接続します。

9.3 [LEVEL]ツマミ

OUTPUT端子、PHONE端子からの出力レベルを調整します。

9.4 S/P DIF OUT端子 (デジタルアウトプット)

オプティカル・タイプのS/P DIFフォーマット(IEC60958、EIAJ CP-1201)のデジタル出力端子です。OUTPUT端子と同じ音声をサンプリング・レート44.1kHzでデジタル出力します。
デジタル・レコーダーやデジタル・オーディオ機器の入力端子に接続します。

NOTE デジタル出力レベルは[LEVEL]ツマミでコントロールできません。「デジタル出力レベルの調整」p.45を参照してください。

セットアップ

NOTE　各接続は必ず電源オフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、スピーカー・システム等を破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

基本接続

1. ToneLabのOUTPUT L/MONO、R端子(9.2)と、ミキサー/レコーダーやギター・アンプ等をケーブルで接続します。(p.11、12)

NOTE　モノラルで接続する場合は、OUTPUT L/MONO端子に接続してください。ToneLabの音質を活かすためにも、ステレオ接続をおすすめします。

ヘッドホンを使う場合は、PHONES端子(5.2)にヘッドホンのプラグをさし込んでください。

NOTE　ヘッドホンをさしても、OUTPUT端子からの出力はカットされません。

デジタル・ミキサー/レコーダーに光ケーブルで接続する場合はS/P DIF OUT端子(9.4)に接続します。(p.11)

2. ミキサー/レコーダーなどに接続する場合は[AMP/LINE]スイッチ(9.1)を" LINE "に、ギター・アンプに接続する場合は" AMP "に設定します。

3. 本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミ(9.3)をリア側から見て左に回し切り、ボリュームを0にします。

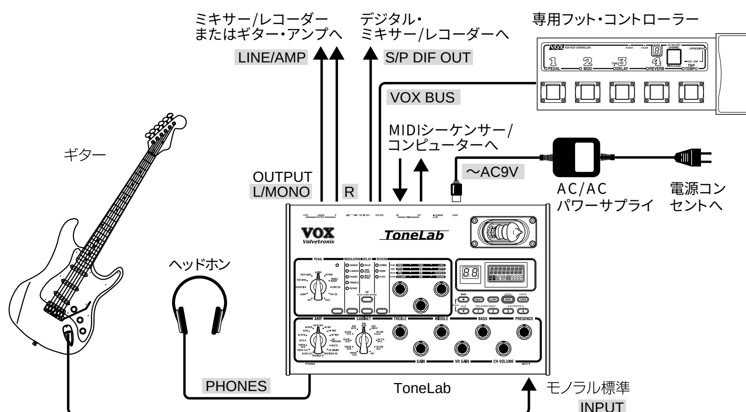
4. 付属のAC/ACパワー・サプライをリア・パネルのAC9V電源端子(6.1)に接続してから、プラグをコンセントに差し込みます。

5. ギターをフロント・パネルの[INPUT](インプット)端子(5.1)に接続します。

6. [STANDBY]スイッチ(6.2)をオンにして電源を入れます。(電源立ち上げ時にノイズが聞こえないようにアンプやミキサーの音量は十分に下げておいてください。)

7. アンプやミキサー、本機リア・パネルの[LEVEL]ツマミ(9.3)を適宜上げて、音量を調整します。

NOTE　本機は真空管を使用しているため、真空管が温まるまでの数秒間、音が出ないことがあります。これは故障ではありません。



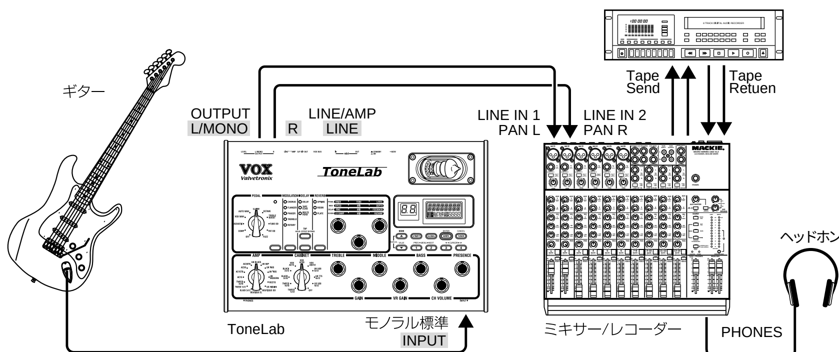
ライン録音で使用する場合

アナログ接続例

- ToneLabを使ってアナログ・レコーディングをするときは、リア・パネルの[AMP/LINE]スイッチ(9.1)を"LINE"に設定し、本機のOUTPUT L/MONO、R端子(9.2)をミキサーやレコーダーのチャンネル・インプット端子に接続します。

HINT　モノラルで接続する場合は、OUTPUT L/MONO端子に接続してください。

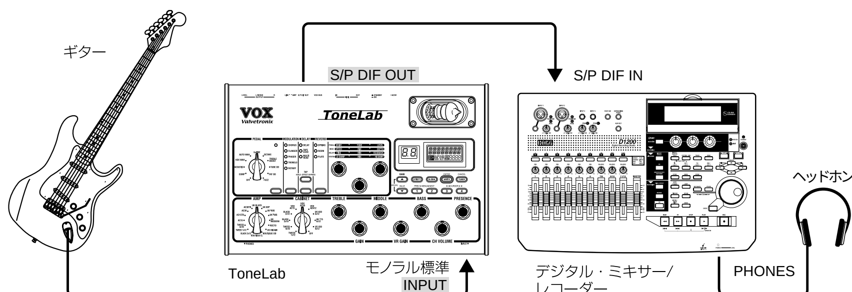
HINT　ステレオ接続する場合は、ミキサー/レコーダーの入力チャンネルのパンをそれぞれL、Rに設定します。



デジタル接続例

- ToneLabを使ってデジタル・レコーディングをするときは、リア・パネルの[AMP/LINE]スイッチ(9.1)を"LINE"に設定し、本機のS/P DIF OUT端子(9.4)をミキサーやレコーダーのデジタル・インプット端子(S/P DIFフォーマットIEC60958 EIAJ CP-1201)に接続します。

NOTE　S/P DIF OUT端子から出力する音量は[GLOBAL]"DOUT LVL"で調整します。設定方法はp.45を参照してください。



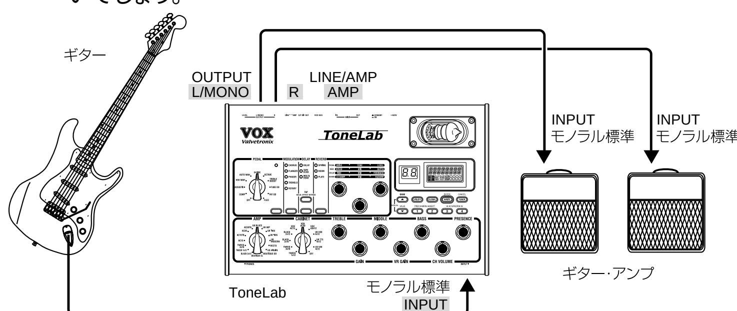
ライブで使用する場合

ギター・アンプ接続例

- ToneLabをライブなどで使用するためにギター・アンプと接続するときは、リア・パネルの[AMP/LINE]スイッチ(9.1)を"AMP"に設定し、OUTPUT L/MONO、R端子(9.2)を、アンプの入力端子に接続します。

HINT　コンボアンプやヘッドの直前に本機を接続する場合は、ギター・アンプ側のトーンをセンターに、そしてサウンドが歪まないようにリア・パネルの[LEVEL]ツマミを調整してください。

HINT　パワーアンプへ直接接続できる端子(ReturnやMain Inなど)を持つギター・アンプと接続する場合は、[AMP/LINE]スイッチを"LINE"に設定し、それらの端子に接続してください。また、これらのアンプ(＋キャビネット)の特性を生かしたいときはCABINETを"OFF"に設定してもよいでしょう。



オプションのフット・コントローラを使用する場合

オプションのフット・コントローラを使用することによって、足元でのプログラム切り替えや、ボリュームのコントロール、またエフェクトのオン/オフや値のコントロールなどが行えます。

- ToneLabのVOX BUS端子(8.1)にオプションのフット・コントローラを接続します。
  接続方法と操作方法はコントローラに付属している取扱説明書を参照してください。
- コントローラのエクスプレッション・ペダルでコントロールする機能と、値が変化する範囲などを設定します。p.38を参照してください。

MIDI機器/コンピュータを使用する場合

MIDIを使うことによって、シーケンサーなどから本機をコントロールしたり、本機から外部MIDI機器をコントロールすることができます。また、MIDIエクスクルーシブ・データが送受信できるシーケンサーやMIDIデータ・ファイラにプログラムを保存し、本機にロードすることができます。

HINT　MIDIに関する接続方法はp.40を参照してください。

プログラム / マニュアルの選び方 (プログラム・セレクト・モード / マニュアル・モード)

本機は、96のプログラムのいずれか、またはマニュアル・モードを選び、演奏します。ここでは、個々のプログラムを選ぶ方法と、マニュアル・モードを選ぶ方法を説明します。

プログラム (プログラム・セレクト・モード)

96のプログラム(24バンク×4チャンネル)があり、これらのプログラムはすべて書き替えが可能です。工場出荷時1～12バンクの各チャンネルにプリセット・プログラム(合計48)が入っています。(バンク13～24にはバンク1～12と同じプリセット・プログラムが入っています。)

プログラムはプログラム・セレクト・モードのときに選ぶことができます。

プログラムを選ぶ

例としてプログラム2-3(バンク2のチャンネル3)を呼び出しましょう。

1. プログラム・セレクト・モードであることを確認します。
バンク・ディスプレイに"o"が表示されているとき(マニュアル・モード)、または[UTILITY](3.4)、[GLOBAL](3.5)、[WRITE](3.6)、[TUNER](3.7)スイッチのいずれかが点灯しているときは、プログラム・セレクト・モード以外が選ばれています。「プログラム・セレクト・モードへの入り方」(p.14)を参照して、プログラム・セレクト・モードにしてください。

2. バンク・ディスプレイの下にあるBANK [▲]、[▼]スイッチ(3.2)を押してバンク2を選びます。
バンク・ナンバーが点滅します。

3. CHANNEL SELECT [3]スイッチ(3.3)を押します。
プログラム2-3がすぐに呼び出されます。このときCHANNEL SELECT [3]スイッチが点灯し、バンク・ナンバーも点灯に変わります。

HINT　バンクを選択しただけでチャンネルを選択していない状態では、バンクを選ぶ前に選択していたプログラムがまだ有効になっています。このため、ライブなどでプログラムを切り替えるときは、バンクを早めに選択しておいてからタイミングよくチャンネルを選ぶと、スムーズなプログラムの切り替えができます。

PEDAL　オプションのフット・コントローラを接続すると、ペダルでプログラムが呼び出せます。

プログラム・セレクト・モードへの入り方

以下の手順でプログラム・セレクト・モードに入ります。プログラム・セレクト・モードに入るとバンク・ディスプレイ(3.1)にバンク・ナンバー(1〜24)が表示されます。

バンク・ディスプレイに" 0 "が表示されているとき(マニュアル・モードのとき)

このとき、本機はマニュアル・モードになっています。以下のいずれかの操作を行ないます。

- CHANNEL SELECT [1]〜[4]スイッチ(3.3)のいずれかを押します。
- BANK [▲]スイッチと[▼]スイッチ(3.2)を同時に押します。

[UTILITY](3.4)、**[GLOBAL]**(3.5)、**[WRITE]**(3.6)、**[TUNER]**(3.7)**スイッチのいずれかが点灯しているとき／バンク・ディスプレイが点滅しているとき**(3.1)

- [TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押します。元いたモードに戻ります。
  マニュアル・モードが選ばれた場合は、上記を参照してプログラム・セレクト・モードに切り替えます。

マニュアル (マニュアル・モード)

マニュアル・モードでは、アンプ・セクションのすべてのセレクターやノブの位置がそのままサウンドに反映します。ギター・アンプのような感覚で操作することができます。

NOTE　マニュアル・モードでエフェクト・セクションとUTILITYのパラメータ(" EXP INIT "以外)を変更すると、その設定は自動的に記憶されます。次回マニュアル・モードに入ったときには、その設定が呼び出されます。

マニュアル・モードを選ぶ

マニュアル・モードではバンク・ディスプレイ(3.1)に" 0 "が表示されます。

プログラム・セレクト・モードが選ばれている場合(バンク・ディスプレイに数字が表示されます)

BANK [▲]スイッチと[▼]スイッチ(3.2)を同時に押します。

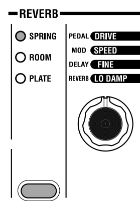
[UTILITY](3.4)、**[GLOBAL]**(3.5)、**[WRITE]**(3.6)、**[TUNER]**(3.7)**スイッチのいずれかが点灯しているとき**

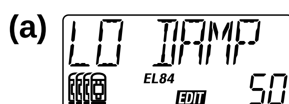
- [TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押します。元いたモードに戻ります。
  プログラム・セレクト・モードが選ばれた場合は、上記を参照してマニュアル・モードに切り替えます。

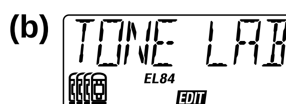
音作りと保存

音作りの方法には、作りたい音に近いプリセット・プログラムなど既存のプログラムを元にして、必要な部分を変更して目的の音を作り上げていく方法と、白紙の状態(ゼロ)から作り上げていく方法があります。

HINT　アンプ、エフェクト・セクションのタイプやパラメータを変更すると、ディスプレイにタイプ名/パラメータ名と値が表示されます(a)。
変更後しばらくするとプログラム名の表示に戻りますが(b)、[TYPE]スイッチの状態やバリュー・ツマミの機能は維持されています。



(a)


(b)


音作りをする

既存のプログラムを元にして音作りをしていく場合は、作りたい音に近いプログラムを選び、イメージと異なる部分[GAIN](1.3)、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS](1.5〜1.8)、[PRESENCE]、MASTERにあたる[VR GAIN](1.4)などを調整したり、[TYPE](2.3)で調整したいエフェクトを選び、バリュー・ツマミ[1]〜[3](2.5)でエフェクトを調整していきます。
例えば、モダンなクランチ・リズム・サウンドを元に、ゲインをアップさせ、もっとラウドな中域を強調したコンテンポラリーなリード・サウンドを作るといった具合です。

ここでは白紙の状態(ゼロ)から作る方法を説明します。

1. 任意のプログラムまたはマニュアルを選びます。(p.13)

HINT　ゼロから音作りをしますので、プログラム・セレクト・モードで作業する場合はどのプログラムでもかまいません。

2. [PEDAL]セレクター(2.2)を“ OFF ”に設定します。
ペダル・エフェクトを使用したい場合は、最後に追加します。

3. [TAP]スイッチ(2.4)を1秒以上押して、モジュレーション、ディレイ、リバーブをバイパスさせます。バイパス時、点灯しているエフェクト・タイプLEDが点滅します。
モジュレーション等のエフェクトは後で加えます。

4. [AMP TYPE]セレクター(1.1)で、使用したいアンプを選びます。

HINT　アンプ・タイプ、キャビネット・タイプやエフェクト・タイプの詳細については「アンプ、エフェクト・タイプの説明」(p.19)を参照してください。

5. [CABINET TYPE]セレクター(1.2)で、使用したいキャビネットを選びます。

HINT アンプ・タイプとキャビネットタイプとの推奨する組み合わせについては、p.30を参照してください。

6. [GAIN](1.3)、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE](1.5〜1.8)や、[VR GAIN](1.4)などトップ・パネルのツマミを適宜調整します。[CH VOLUME](1.9)はパワー段の歪みなどトータルなサウンドを維持したまま音量を変化させます。

HINT ベストな歪みを得るには、できるだけ[VR GAIN]を上げてください。

7. モジュレーション、ディレイ、リバーブを加えるには、[TAP]スイッチ(2.4)をもう一度押してバイパスを解除します。

8. 任意のエフェクトを選択し調整します。例えば、テープ・エコーを加える場合、DELAYの[TYPE]スイッチ(2.3)を押しで" TAPE ECHO "のLED(2.1)を点灯させます。
[TAP]スイッチ(2.4)を設定したいテンポで2回以上押すことによってディレイ・タイムを設定します。
DELAYの[TYPE]スイッチが点灯していることを確認してください。この状態で右側の3つのバリュー・ツマミ[1]〜[3](2.5)を回すと、順にタイムの微調整、エコー音のミックス量、エコーのフィードバック量がそれぞれ調整できます。

MODULATION、REVERBの各エフェクトも同様の操作で調整できます。(TAPによる設定はできません。)

NOTE エフェクトの設定によっては出力音に歪みが生じる場合があります。この場合、CH VOLUME(1.9)を下げて調整してください。

HINT モジュレーション、ディレイ、リバーブを個々にオフにするときは、各エフェクト・タイプのLEDが消灯するまで、それぞれの[TYPE]スイッチ(2.3)を押してください。

9. ペダル・エフェクトを使用するには、[PEDAL]セレクター(2.2)でエフェクトを選びます。

10. PEDALの[TYPE]スイッチ(2.3)が点灯していることを確認し、バリュー・ツマミ[1]〜[3](2.5)を回して調整します。

HINT ペダル・エフェクトは、モジュレーションやディレイ、リバーブの入っていないサウンドのほうが調整しやすいので、[TAP]スイッチ(2.4)を1秒以上押してバイパスさせます。調整が済んだら、[TAP]スイッチをもう一度押してください。

11. 気に入ったサウンドに仕上がったら保存してください。

NOTE 保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると音作りをしていた内容は消えてしまいます。

HINT ノイズが気になる場合などはノイズ・リダクションを調整してノイズを抑えることができます。また、プログラムを選ぶときに作ったプログラムがどれだったか迷わないようにプログラムに名前を付けることができます。これらの設定もプログラムに保存されます。

ノイズ・リダクションの調整 (UTILITY “NR SENS”)

ノイズを抑える効果を設定します。

NOTE　アンプ・タイプに“ RECTO ”や“ US HIGAIN ”などのハイ・ゲイン設定を使用する場合はノイズ・リダクションをおすすめします。ハイ・ゲインはノイズにつながるからです。

NOTE　ノイズ・リダクションは、プログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [UTILITY]スイッチ(3.4)を押してスイッチを点灯させます。
2. ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ NR SENS ”(ノイズ・リダクション)が表示されます。他のものが選ばれている場合は[1/PREV]スイッチ(3.3)を押して切り替えてください。
3. バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)でノイズ・リダクションの値を変更します。バリュー・ディスプレイ(3.10)にはノイズ・リダクションのかかり具合が表示されます。値(0.2、0.4、...、10.0)が大きいほど効果が強くなります。“ OFF ”にすると効果が無くなります。

   NOTE　使用するギターによっては、ノイズ・リダクションの値を上げすぎると、音が途切れることがあります。

4. [TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押します。元いたモードに戻ります。

プログラムに名前を付ける (UTILITY “Program name”)

プログラムに名前を付けます。

NOTE　プログラム名は、プログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [UTILITY]スイッチ(3.4)を押してスイッチを点灯させます。
2. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)にプログラム名を表示します。押すたびに表示が切り替わります。
3. [3/◀]、[4/▶]スイッチ(3.3)を押して変更したい文字にカーソルを移動し(選んでいる文字が点滅)、バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で文字を変更します。

   使用できる文字は下図の通りです。

    !"#$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?
   @ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[\]^_

4. 手順3の操作を繰り返して名前を付けます。
5. プログラム名を入力したら[TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押して元いたモードに戻ります。

音作りと保存

プログラムを保存する

気に入ったサウンドに仕上がったら保存(ライト)します。

1. [WRITE]スイッチ(3.6)を押します。
ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ ＊WRITE＊ ”と表示され、バンク・ディスプレイ(3.1)とCHANNEL SELECT [1]〜[4]スイッチ(3.3)が点滅します。

2. バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で保存先のバンクを選び、CHANNEL SELECT [1]〜[4]スイッチ(3.3)で保存先のチャンネルを選びます。

例えば13-1(バンク13、チャンネル1)に保存する場合は、バリュー・ツマミ[3]または[▲]、[▼]スイッチを操作してバンク・ディスプレイ(3.1)に“ 13 ”を表示し、CHANNEL SELECT [1]スイッチを押してスイッチを点滅させます。

3. [WRITE]スイッチ(3.6)をもう1度押します。
“ COMPLETE ”と表示され、これでプログラムが保存され、プログラム・セレクト・モードに戻ります。

NOTE プログラムは上書き保存されます。手順2で選んだナンバーの元のプログラムは消去されます。

NOTE 新しいプログラムを保存しない場合は、[TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押して操作をキャンセルしてください。

NOTE プログラム・セレクト・モードで音作りをしている場合は、保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり電源を切ると、音作りをしていた内容は消えてしまいます。

マニュアル・モードで保存しないで他のプログラムに切り替えたり電源を切った場合、エフェクト・セクションとUTILITYのパラメータ(ノイズ・リダクションなど)は最後に設定した値を記憶していますので、次回マニュアル・モードに入ったときに、その設定が呼び出されます。アンプ・セクションの設定はセレクターとノブの現在位置が反映されます。

設定を元の状態に戻す(オリジナル・バリュー)

プログラムに保存されているパラメータの値は、バリュー・ディスプレイ(3.10)のオリジナル・バリュー・アイコンで確認できます。
ツマミやスイッチでパラメータの値を変更しているとき、その値がプログラムに保存されている値(オリジナル・バリュー)と一致すると、[ORIG](オリジナル・バリュー)アイコンが表示されます。

HINT 気に入ったプログラムを見つけ、それがどんな設定になっているか知りたい場合は、このバリュー・ディスプレイを活用するとよいでしょう。

アンプ/エフェクト・タイプの説明

ここではToneLabの16種類のアンプ・モデルと10種類のキャビネット・モデル、10種類のペダル・エフェクト、5種類のモジュレーション/3種類のディレイ/3種類のリバーブ・エフェクトについて説明します。

A. AMP(アンプ)モデル

最初に、素晴しいサウンドを誇る数々のアンプの中からToneLabのために特別に選んだ16種類のアンプ・モデルについて説明します。モデルとなるアンプを選択するには、かなりの時間を費やし、スタッフ同士の意見交換、プロ・ミュージシャンやギター専門家のアドバイス、数限りない試聴、試演を繰り返しました。こうして選んだアンプは皆によく知られた最良なサウンドを生み出すだけではなく、素直なクリーン・サウンドから、とてつもなく歪んだサウンドまで、幅広く網羅します。

コントロール類について

本機のトップ・パネルには、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[PRESENCE]、[GAIN]、[VR GAIN]、[CH VOLUME]の各コントロールがありますが、モデルとなったアンプには必ずしもこれらのコントロール類がすべて搭載されているわけではありません。そこで、元のアンプにないツマミをそのまま遊ばせておくのももったいないので、アンプ・モデルの再現性を損なわすことなく、この6つのコントロールに機能を割り当てました。つまり、オリジナルのアンプの音色を正確に再現するだけでなく、更に自在なコントロールができるわけです。

例えば、オリジナルのアンプに3バンドEQの全部がそろっていない場合は、実際のアンプにないコントロールを12時の方向にしたときに「ニュートラル」、つまりオリジナルのサウンドに相当させせることができます。それ以外に変えることによって自在な音色調整が可能になります。以下はトレブル、ミドル、ベース・コントロールのいずれか(または全部)がそろっていないアンプです。

アンプ	オリジナルのトーン・コントロール
AC15	トップ・カット＆ベース・カット・スイッチ
AC15TB	トレブル＆ベース
AC30	トップ・カット・コントロールのみ
AC30TB	トレブル、ベース、カット・コントロール
TWEED 1x12	トーン・コントロールのみ

プレゼンス・コントロールについても同様です。元のアンプにプレゼンス・コントロールがない場合は、ToneLabの[PRESENCE]コントロールを左いっぱいに回しきると「ニュートラル」の位置になります。オリジナルのアンプ・サウンドが再現できる位置です。該当するアンプ・モデルには、BLACK 2x12、TWEED 1x12があります。AC15、AC15TB、AC30、AC30TBでは、トップ・カット・コントロールとして動作します。

ゲインとボリュームについて

ToneLabには3つのプログラマブルな音量(ゲイン)をコントロールするツマミ[GAIN]、[VR GAIN]、[CH VOLUME]があり、それぞれが固有な働きをします。どのアンプ・モデルも、これらの設定次第でサウンドが驚くほど変化します。

たいていのビンテージ・アンプにはボリューム・コントロールが1つしかありません。最近のアンプには、たいていゲインとマスター・ボリュームの2種類のレベル・コントロールがあります。ゲイン（あるいはプリアンプ・ボリューム）はプリアンプ部の入力レベルを調整し、マスター・ボリュームはプリアンプ部からパワーアンプ部へ送る信号レベルを調整します。上記のようなビンテージ・アンプにはマスター・ボリュームは無く、プリアンプの出力が直接パワーアンプに送られます。
各コントロールは、以下の働きをします。

[GAIN]コントロール:　マスター・ボリュームの無いAC15、AC15TB、AC30、AC30TB、UK BLUES、UK 68P、BLACK 2x12、TWEED 1x12、TWEED 4x10のようなビンテージ・タイプのモデルでは、オリジナル・アンプのVOLUMEとして働きます。その他のマスター・ボリューム付きのモダン・アンプでは、GAINまたはPREAMP VOLUMEと同じ働きをします。
[VR GAIN]コントロール:　マスター・ボリュームとして、プリアンプ部からパワーアンプ(Valve Reactor)部へ送る信号レベルをコントロールします。
[CH VOLUME]コントロール:　アンプ出力とスピーカー・キャビネット入力の間のアッテネータ（減衰）として機能します。このコントロールで最終的なミックス・レベルと、各プログラム間のレベル・バランスを調整します。

ToneLabのプリアンプ部とパワーアンプ部の関係は、オリジナル・アンプの動作と同じように設計しています。**ToneLabでオリジナル・アンプのサウンドを再現する**には、[VR GAIN]コントロールを次のように設定してください。
マスター・ボリューム・コントロールがないビンテージ・タイプのモデルで使用するときは、[VR GAIN]コントロールを最大に上げます。
マスター・ボリューム・コントロール付きのモダン・タイプのモデルで使用するときは、マスター・ボリューム・コントロールを調整するのと同じように[VR GAIN]を調整してください。[VR GAIN]の設定が低いときは、どちらかというとプリアンプ・タイプのディストーションとなり、高い設定にすると、プリアンプがValve Reactorに負荷をかけてクリップし始め、Valve Reactorの歪みと暖かみが加わります。

真空管の話

真空管のことをイギリスでは「バルブ」、アメリカでは「チューブ」と呼びます。このように国によって名称は違いますが、ToneLabの16個のアンプ・モデルの心臓にはいずれも、あの真空のガラス管が息づいています。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプは「チューブ」と呼んでいます。

Q&A
ECC83プリアンプ・バルブと12AX7プリアンプ・チューブの違いは?
まったく同じです。ECC83はイギリス名、12AX7（別名7025）はアメリカ名です。

パワーアンプの精度

すでに述べたように、優れたチューブアンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に大きな影響を与えています。パワーアンプの動作（A、AB級）、真空管の種類

(EL84、EL34、6L6、6V6)、負帰還回路特性、パワー段のスピーカーとの応答性(ダンピング特性)、これらの要素が音色に重要な役割を果たしています。ToneLabは米国特許取得済みのValve Reactor技術を採用することによって、このような要素が忠実に再現できるのです。このフル・チューブアンプと同じ回路構成を持つValve Reactor技術によって、モデルとなったアンプのフル・チューブ・パワー段の独特の様々な回路特性をシミュレートして、チューブアンプに固有の重要な特性が忠実に、そして正確に再現します。たとえばアンプ・モデルのAC30TBを選択すると、ToneLabのValve Reactorパワー段はA級、無帰還という設定に切り替わります。

次に各アンプ・モデルについて説明しましょう。

1. AC15

素晴しいサウンドの1962年製VOX AC15のチャンネル2をモデリングしました。VOX AC15は1x12"、15W、デュアル・チャンネルのチューブ・コンボで1958年に発売されました。VOXアンプの初デビューでした。その名前の由来は単純です。ACとはAmplifier Combination(アンプ・コンビネーション)、15はもちろん15W。コンパクトなキャビネット、パワー、内蔵トレモロ/ビブラート(チャンネル1のみ)、そして素晴しい音色で、当時人気のあったブリティッシュ・バンドと共に大ヒットになり、チャートのトップを賑わすバンドもVOXアンプを喜んで推奨したものです。

このアンプのユニークな音色は、主に無帰還A級動作のEL84出力バルブ(チューブ)を使用したことによります。モデリング対象となったその他のVOX社の3機種(AC15TB、AC30、AC30TB)についても同様です。このデザインのため、パワーとディストーションが増し、アンプのボリュームを上げるほど益々顕著になる第二、第三倍音で更に厚みがかかりました。本機のパワー段では、AC15だけでなくその他のVOXモデルを選ぶと、Valve Reactor技術によって自動的に無帰還A級動作に設定されます。

この時代のほとんどのアンプと同様、AC15も「シンプル」の極みで、モデリング対象となったチャンネル2にはボリューム、ブリリアンス(実際はベース・カット)とトップ・カットの3つのコントロールしかありません。本機でAC15を選択すると、[GAIN]コントロールがオリジナルのボリューム・コントロールの役目を果たします。また本機[PRESENCE]コントロールはオリジナルのトップ・カット・ツマミに相当します。AC15のトップ・カット・ツマミ(*1)が高域成分を調整する動作は「普通」のトレブル・コントロールとはかなり異なります。これをうまく使いこなせば、かの有名なVOXアンプの「きらびやか」なサウンドを忠実に再現できます。[BASS]コントロールは、オリジナル・モデルにある切り替えスイッチに代えて、可変のベース・カット(オリジナルの表記はBrilliance)になっています。

[TREBLE]、[MIDDLE]コントロールはそれぞれ12時の方向に設定すると「ニュートラル」、つまりオリジナルそのままの音色が得られます。

***1:** オリジナルのAC15搭載のトップ・カット・ツマミは、一般的な動作と逆の動きをするので注意してください。オリジナルのモデルでは右に回すほど「カット」されますが、本機では、[PRESENCE]コントロールを右に回すほど「きらびやか」になり、ゼロに近くなるほど「カット」量が大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: EF86 x 1、ECC83 x 3、ECC82 x 1(プリアンプ内)、EZ81 x 1(整流器)、EL84 x 2(パワーアンプ内)

アンプ/エフェクト

AMP TYPE

2. AC15TB

1950年代後半に登場したAC15に対し、AC15TBはAC15の低出力パワー・アンプの甘美で理想的な音色特性と、AC30のトップ・ブースト・チャンネルの自由度の高い音色を組み合わせた、モダンなアンプです。これに更に甘さを加えるため、セレッション製12インチ" BLUE "スピーカー、リバーブ・コントロール、マスター・ボリュームも導入しました。その結果できたのが、ヴィンテージVOXアンプのトーンとモダンな特徴をうまく融合した、自由度の一層高い15Wのチューブ1x12コンボです。

オリジナル・モデルのトーン・コントロールはトレブルとベースだけなので、本機の[TREBLE]と[BASS]コントロールでトーンを調整し、[MIDDLE](12時の方向でオリジナルの値)と[PRESENCE](最大でオリジナルの値)を使って、更に自在な音色の調整ができます。「VOXらしさ」を最大限に出すために、[PRESENCE]コントロールがオリジナルのAC15のトップ・カット・ツマミと同じ機能を持つように設計しました。ただし、AC15のアンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

VOXアンプのトレードマークのサウンド通り、このモデルは響きのいいクリーン・トーンと、スムーズながらも理想的な倍音の波打つオーバードライブ・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5(プリアンプ内)、5Y3GT x 1(整流器)、EL84 x 2(パワーアンプ内)

3. AC30

前述したようにVOX AC15は50年代後半にブリティッシュ・バンドの間で大ヒットになりました。ところが、AC15を愛用するバンドの人気が高まるにつれて、もっとパワフルなアンプへの要求も高まりました。AC15は15Wにしてはかなり大音量でしたが、1000人以上の観客が叫ぶ中では蚊の鳴き声です。50年代後半から60年代前半は、ギター・アンプの音をPAに送らず(PAはもっぱらボーカル用に使われました)、バンドの背後に立ち並ぶアンプが音を出す役目を背負いました。このためVOX社は大音量のアンプの必要性に答えるために喜んで開発に取りかかりました。

その成果が発表されたのが1959年。30W、2x12のAC30です。トップのブリティッシュ・バンドが早速AC30にグレードアップし、何カ月かして、そのバンドの1組が華やかなギター・インストルメンタルのシングルでチャートのトップに踊り出ました。そこで他のブリティッシュ・バンドのほとんどが、追い付け、追い越せとばかりにAC30を採用し、AC30は当時の「ビート・ブーム」の火付け役になりました。さらに、60年代にはイギリスのバンドがアメリカに波のように押し寄せ成功を収めた、かの有名な現象「ブリティッシュ・ロックのアメリカ上陸」の原動力ともなりました。この先頭に立ったのはリバプール出身の4人組で、VOXアンプにとって最も有名な大使となったのです。

モデリングの対象となったのは、ブリティッシュ・ロックのアメリカ上陸を定義づけた、あのクラシックな音色を包括した、AC30のノーマル・チャンネルのサウンドです。AC15と同様、AC30のノーマル・チャンネルもツマミがボリュームとトップ・カット(本機では[GAIN]と[PRESENCE](*2)で代用)しかありません。

***2:** [PRESENCE]コントロールはオリジナルのAC30のトップ・カット・ツマミと同じ機能を果たしますが、AC15アンプ・モデルと同様、動作はまったく逆で、ゼロに近づくほどカット量も大きくなります。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4、ECC82 x 1(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器)、EL84 x 4(パワーアンプ内)

4. AC30TB

AC30は絶大なる成功を収めましたが、更なる音色的自由度とゲインを望むアーティストも多く、VOX社はこれに応えて、ECC83バルブ(チューブ)を追加した音色回路を持つアンプを開発しました。この回路が「トップ・ブースト」です(*3)。トップ・ブーストをAC30に追加した際に、ブリリアント・チャンネルのゲインを上げ、EQコントロールも2つ追加してトレブル、ベース、カットの3つのトーン・コントロールを搭載しました。これがギター・プレーヤーたちに瞬く間にヒットとなった、と言ってもまだ過小評価です。このググッと迫る力強いサウンドは60年代中盤の多くの有名バンドのトレードマーク的サウンドになりました。

***3:** VOXは当初、この回路を「ブリリアンス・ユニット」と呼びましたが、後に「トップ・ブースト」と呼ばれて有名になりました。トップ・ブーストは最初、改造モデルにのみ導入されましたが、それほど難しくない改造とはいえ、ほとんどの人はあまり手を付けられませんでした。(電気回路が得意な人もいるかもしれませんが、著者にとって電気回路ををいじるのはあんまり楽しいこととは言えません。)やがて1964年、トップ・ブーストはAC30の標準仕様として搭載されるようになったのです。

[PRESENCE]コントロールはオリジナルのカット・ツマミの機能を果たし(ただし、ゼロに近くなるほどカット量が大きくなります)、[GAIN]、[TREBLE]、[BASS]コントロールは、オリジナルのボリューム、トレブル、ベース・コントロールを再現します。[MIDDLE]コントロールは12時の方向でオリジナル・サウンドとなります。

このアンプ・モデルは、スムーズかつ繊細なトップ・エンド、威厳のある野太いオーバードライブ、オリジナル・アンプをギター・プレーヤーの必須アイテムにしたA級音色を併せ持つ、豊かで華やかなクリーン・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 5、ECC82 x 1(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器)、EL84 x 4(パワーアンプ内)

5. UK BLUES

非常に珍しいハンド・ワイヤリングによって、60年代初期、古き良きイングランドで作られたヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。このアンプはTWEED 4x10の回路を元に設計されましたが、別のタイプの真空管、トランスフォーマーを使用し、クローズ型キャビネットに出力インピーダンスの高い全く別タイプのスピーカーを採用するなど、基本要素でいくつかの変更を加えたため、ユニークな音色になっています。この30ワット出力のアンプの音量を一杯に上げると、ロックン・ロール・サウンドとして永遠に変わらないクランチを生み出します。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3(プリアンプ内)、GZ34 x 1(整流器)、KT66 x 2(パワーアンプ内)

6. UK 68P

1968年、UK製50W、プレキシガラスのフロント、4つのインプットを持つヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしました。オリジナル・モデルにはマスター・ボリュームはなく、最善の、あるいは唯一のセットアップ方法はボリュームを目いっぱい上げて音をビリつかせることでした。

このアンプは極めて豊かで暖かみのあるトーンを生み出します。クラシック・ロックのサウンドが即座に味わえます。このアンプでフルポテンシャルまで鳴らし切る唯一の方法は、先程も言いましたが、耐えられないほどの大音響までボリュームを上げることです。幸いToneLabは音量コントロールが可能です。オリジナル・モデルと同じレスポンスを得るには[VR GAIN]コントロールを最大に上げてください。そうすればToneLabはオリジナル・アンプと同じように働きます。これはすべてのマスター・ボリュームがないタイプのアンプ・モデルについても言えることです。

[GAIN]コントロールを目いっぱい上げると、演奏のダイナミクスのわずかな変化にも優美に応答し、クラシック・ロックのあの最高のオーバードライブが即座に体験できます。また、ギター側のボリュームを下げるとユニークできわめて使いやすいクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3(プリアンプ内)、EL34 x 2(パワーアンプ内)

7. UK '80S

1983年、UK製100Wマスター・ボリューム付きシングル・チャンネルのヘッドをモデリングしました。アンプの音量をいっぱいに上げなくてもクランチ・トーンが生み出せるモデルです。ゲイン・コントロールをフルアップすると、80年代を制覇した、うなるような太いハード・ロック・サウンドが得られました。身体にピッタリはりついたタイツのようなズボンでハリケーンのようにロックしたヨーロッパのバンドや稲妻に乗ったスピード狂のアメリカのバンドにとって、このモデルは唯一の選択肢です。

オリジナルのアンプは独特のハードなクランチ・サウンドで有名になりましたが、そのサウンド一辺倒ではなく、本機のモデルもギターのボリュームを絞ると、ロックのコード・ワークに最適な、どんなミックスでも音のよく通るブライトでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 3(プリアンプ内)、EL34 x 4(パワーアンプ内)

8. UK '90S

100Wデュアル・チャンネル・ヘッドのリード・チャンネルをモデリングしました。プリアンプでディストーションをかなりかけられます。このアンプはUK '80Sに代わるもので、ゲイン、機能、自由度を要求するロック・ギタリストに応えて開発され、すぐに「業界の標準」になりました。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4(プリアンプ内)、EL34 x 4(パワーアンプ内)

9. UK MODERN (UK MODRN)

UK '80SとUK '90Sを融合させた100Wのモダン・アンプのハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。UK '90Sの心地よいトーンのハイ・ゲイン・プリアンプ段、モダンなサウンドと、UK '80Sのパワー段が持つ、うなるようなパンチの効いたファットでヘヴィーなサウンドを組み合わせています。その結果、個々の音に枠組みを持ちながらも、かなり攻撃的で鼻息の荒いモンスター・サウンドに仕上がっています。本機の[GAIN]コントロールをフルアップにすると、ローエンドはぐっと締まっ

てパンチ力を維持しながら、ソウルフルなフィードバックにむせぶギターソロが弾けます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x 4（プリアンプ内）、EL34 x 4（パワーアンプ内）

10. RECTO

カリフォルニア産、100W、メタル・プレートに身を包んだ猛獣のごときハイ・ゲイン・アンプのモダン・ハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。暗くて奥底の知れないローエンド、きらめく高域、怪獣のようなゲインは、できるだけ低くチューニングしたギターや7弦ギターを振るったメタル・アクトに最適です。

[GAIN]コントロールを低く設定すると、空間を広げる豊かな高域倍音によって強調された特有の明るくクリーンなサウンドを生みます。このためRECTOはカントリー&ウエスタンのピッキングにはお奨めできませんが、海底よりもっと低いチューニングでニューメタルを弾くような場合はRECTOがピッタリです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 5（プリアンプ内）、5U4G x 2（整流器）、6L6 x 4（パワーアンプ内）

11. US HIGAIN (US HI-G)

蛇皮でカバーされた1991年製100Wアンプ・ヘッドのオーバー・ドライブ・チャンネルをモデリングしました。このハイ・ゲイン・アンプはHot Rod（ホット・ロッド）というレースカーを作った人がデザインしたもので、ボリュームのパワーは凄いの一言です。

オープンなローエンドと圧縮した中/高域を組み合わせた、パワフルでヘヴィーなサウンドで、どんな極端なゲイン設定でも芯の通った迫力のあるトーンになります。この特性は世界の有名なプレーヤーの間で好まれ、多目的な使用が可能となっています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4（プリアンプ内）、6L6 x 4（パワーアンプ内）

12. BOUTIQUE OD (BTQ OD)

非常に珍しく非常に高価で評判の高い100Wヘッド、オーバードライブ・スペシャルのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。完全受注生産でハンド・メイドされるこのアンプは、サックスのようなレガート・ソロに最適です。本機の[GAIN]コントロールを上げたときの素晴しいサスティーンはスムーズでソウルフルです。女性の柔らかな丸みのある声に似ています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3（プリアンプ内）、EL34 x 4（パワーアンプ内）

13. BOUTIQUE CL (BTQ CL)

これもBOUTIQUE ODと同じメーカーの、完全受注生産でハンド・メイドされる高級アンプのクリーンチャンネルをモデリングしました。最高級のブティック・アンプを何種類か試聴しましたが、これがダントツでした。ケバケバしい赤いカバーはお世辞にもセンスがいいとは言えませんが、クリーンサウンドは抜群です。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音は、シングル・コイル・ピックアップに最適です。また、ピッキング・スタイルやピック・アップの選択に対する反応も早く、コードを弾いたときのサウンドはしびれるように優雅で華やかです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 3（プリアンプ内）、6L6 x 4（パワーアンプ内）

14. BLACK 2x12 (BLK 2X12)

モデルとなったデュアル・チャンネルのフロント・ブラック・アンプはカントリーやブルース・プレイヤー必須の2x12コンボです。深みのあるピアノ風ベース音を含んだタイトなクリーンサウンドです。

トーンが素直なだけでなく、特にシングル・コイル・ピックアップで使用するとクラシックなシカゴ・ブルースのトーンを生み出します。オリジナルさを忠実に再現するために、ボリュームをいっぱいに上げると低域が「しゃがれた」サウンドになります。このクラシックなBLACK 2x12オーバードライブを再現するには、本機の[GAIN]と[VR GAIN]をフルアップ、[BASS]は完全に絞り、[MIDDLE]はフルアップ、[TREBLE]は好みの位置に設定してください。オリジナル・アンプのEQコントロールがプリアンプのゲイン・ステージ前に位置しているので、このように中域を上げることで、中域内のディストーションが強調され、その結果、愛すべき、歌うようなブルース・トーンが生まれます。

オリジナル・モデルにはプレゼンス・コントロールはなく、ブライト・スイッチがありました。本機では[PRESENCE]コントロールがブライト・スイッチの役目を果たします。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x 4 & 12AT7（別名ECC81） x 2（プリアンプ内）、6L6 x 4（パワーアンプ内）

HINT　ペダル・セクションのACOUSTICと組み合わせるとベストです。

15. TWEED 1x12 (TWD 1X12)

1958年カリフォルニア州フラートンでツイード地にくるまれて誕生したアンプをモデリングしました。18W、1x12のシンプルなチューブ・コンボです。ボリューム・ツマミの他にはトーン・ツマミが一つあるだけで、これでトレブルのカット/ブーストを調整しました。本機の[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]を使って次の要領でオリジナル・モデルのトーンを再現します。

オリジナル・モデルのトーン・ツマミを絞った状態を再現するときは、[BASS]コントロールをいっぱいに上げ、[TREBLE]と[MIDDLE]コントロールを9時の方向に設定します。（[PRESENCE]コントロールを0に設定）

オリジナル・モデルのトーン・ツマミをいっぱいに上げた状態を再現するときは、[TREBLE]を上げ[MIDDLE]と[BASS]コントロールを9時の方向に設定します。（[PRESENCE]コントロールを0に設定）

HINT　オリジナル・アンプにはプレゼンス・コントロールがないので、本機の[PRESENCE]コントロールが0のときにオリジナル・サウンドが再現されますが、好みによって[PRESENCE]コントロールを上げると、サウンドにきらめきが加わります。

オリジナルの音色はクリーン・サウンドでは比較的単純ですが、オーバードライブさせると倍音豊かな、うなるようなサウンドになり、[GAIN]と[VR GAIN]コントロールを目いっぱい上げると、特にシングル・コイル・ピックアップで演奏時には、50年代や60年代のロカビリー、ロックン・ロール・サウンドを生み出します。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 1（プリアンプ内）、5Y3GT x 1（整流器）、6V6 x 2（パワーアンプ内）

16. TWEED 4x10 (TWD 4X10)

もともとベース・ギター用に設計された1959年製4x10コンボ・アンプをモデリングしました。スムーズで抜けの良いオーバー・ドライブ・サウンドは、リズム・アンド・ブルースに最適で、6弦プレーヤー達はすぐにこのアンプに飛びつきました。またピッキングの強弱やギターのボリュームに敏感に反応します。つまり、アンプをいっぱいにドライブしているときにギター・ボリュームを落とすと、クリーンで豊かな音色が出ます。またピッキングの強弱によっては、一つ一つの音やコードのクリーン度/ディストーションの程度を変えたりすることができます。

もう一つの音色特性は、アンプをハードにドライブしたときに整流器GZ34が音に加える、クラシックなチューブアンプの「スポンジ感のある」サウンドです。[GAIN]と[VR GAIN]コントロールをフルアップしハードにピッキングすると、最初のアタックから音がポワーンと弛むのが次第にわかってくるはずです。

HINT　[MIDDLE]と[TREBLE]コントロールは互いに反応しあうので、[MIDDLE]コントロールを高く設定すると、自動的にトレブルが強調されます。これを相殺するために[TREBLE]コントロールを若干下げるといいでしょう。逆に[MIDDLE]コントロールを低く設定するとトレブルが弱くなるので、[TREBLE]コントロールを若干上げます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x 1、12AX7 x 2（プリアンプ内）、GZ34 x 1（整流器）、5881s x 2（パワーアンプ内）

B. CABINET(キャビネット)モデル

キャビネット/スピーカーの精度

キャビネット・モデルも、アンプ・モデルに匹敵する精度で、オリジナルのスピーカー・キャビネットを調べ上げ、緻密な、そして忠実な再現を可能にします。ご存知のように、実際の真空管アンプの出力は、それが駆動するスピーカーのさまざまなインピーダンス曲線に深く関係しています。暖かみのあるサウンド、パンチの効いたサウンド、あるいは心地よいサウンドが出せるか出せないかはこのことに大きく依存します。スピーカー・キャビネットの設計というのは、単に周波数特性を考えるだけでなく、トランジェント・レスポンス(音程変化に対するスピーカーの追従性)、アンプ出力に対するスピーカーのインピーダンス曲線などの相互関係を設計することなのです。さらに、キャビネット設計ではエンクロージャー(キャビネット)の実際のサイズ、その材質や厚さ、オープンタイプかセミオープンタイプなのか、クローズドバックなのかなど、十分考慮しなければなりません。これらの要素をToneLabはValve Reactor技術による回路とモデリング技術によって解決したのです。

では、ToneLabのために特別に選び、モデリングした各キャビネットについて説明します。

1. TWEED 1x12 (TWD 1X12)

このスピーカー・キャビネットはToneLabのTweed 1x12アンプ・モデルの"つれ"です。名前が示すとおり、12インチ・スピーカー1発を使用していますが、これは米国製アルニコ・マグネットのビンテージ・ラウド・スピーカーとして有名なものです。

2. TWEED 4x10 (TWD 4X10)

同じく米国製アルニコ・マグネット・スピーカーを内蔵するこのキャビネットは、ToneLabのTWEED 4x10アンプ・モデルのパートナーとなります。オープン・バックのこのキャビネットは、4つの10インチ、8Ωのスピーカーを使用し、パラレル接続によって2Ωのインピーダンスになります。もともとベース・アンプとして設計されたこのスピーカー・キャビネットは様々なスタイルのロックに使用できます。

3. BLACK 2x10 (BLK 2X10)

このコンボ・アンプはToneLabのアンプ・モデルにはありませんが、開発チームはこの60年代中期のカリフォルニア州フラートンで作られた、US製セラミック・マグネットの10インチ・スピーカー2発を搭載した35Wオープンバック・コンボのトーンが好みなので採用しました。ブルースやジャズ、カントリーに最適です。他のキャビネット・モデル同様、どのアンプ・モデルとも組み合わせられ、面白いトーンのコンビネーションを作り出すことができるでしょう。お勧めできる組み合わせはp.30表をご覧ください。

4. BLACK 2x12 (BLK 2X12)

これまでの説明で多分気付かれたでしょうが、このスピーカー・キャビネットはBLACK 2x12アンプ・モデルに伴ってモデリングされたもので、12インチのセラミック・マグネット・スピーカーを2発搭載した60年代中期の米国製です。8Ωスピーカーですが、パラレルにワイヤリングされて4Ωの負荷になっています。これらのスピーカーは様々なスタイルの音楽で数えられない程のレコーディングに

使われ続けてきましたが、カントリーやブルースで最も使用されました。

5. VOX AC15 (AC15)

英国イプスウィッチのセレッション製、名高い" VOXブルー・アルニコ・スピーカー "を使用した12インチ1発のオープン・バック・コンボで、最近リイシューされたAC15TBのスピーカー・キャビネットのモデリングです。このスピーカーは8Ω、15ワットで、1x12オープンバックのキャビネットには非常に充実したものです。もちろん有名なVOXの" チャイム "のような高域を生むのに貢献しています。

6. VOX AC30 (AC30)

AC15の2倍のパワー、2発の12インチVOXブルー・アルニコ・スピーカーを16Ω用にシリアルにワイヤリングしたこのスピーカー・キャビネットは、さらにVOXトーンの素晴らしさが加わります。今回開発チームは60年代のオリジナル・スピーカーのサウンドをモデリングしました。スピーカーは年を重ねるにつれて音色が変化しますが、AC15とAC30のキャビネット・モデルでは、年代の違う同じスピーカーで、違ったサウンドを与えることができます。

7. VOX AD412 (AD412)

このスピーカー・キャビネットは最近のVOX製品の一つです。疑いなく良い音を出すキャビネットなので採用しました。ネオジウム・マグネットを採用したカスタム・デザインのセレッション製スピーカーを使用し、特殊な音響設計技術を採用した4x12キャビネットです。どのアンプ・モデルとも組み合わせて使用できますが、アンプ・ヘッドのモデルと特に合います。

8. UK H30 4x12 (UK H30)

英国製、60年代後期の30ワット・スピーカーを搭載したヘビー・デューティなキャビネットをモデリングしました。過去、これらのキャビネットは数えられない程のクラッシック・ロックのレコーディングに使われてきました。現在、ToneLabを使えばその素晴らしいサウンドを直にレコーディングできるのです。

9. UK T75 4x12 (UK T75)

この4x12モデルは、現行の75ワット英国製スピーカーを搭載した英国製の黒い箱として有名です。よく積み上げられているのを見ると思いますが、恐らく今までで最も売られたギター・キャビネットで、ほとんどのスタイルのロックに適します。

10.US V30 4x12 (US V30)

これは、RECTOアンプ・モデルと同じカリフォルニア出身の" 黒い野獣 "キャビネットのモデリングです。英国製の" Vintage "と名づけられたスピーカーを使用しています。深い低域と、輪郭のある高域で知られ、特に最近のニューメタル愛好者には非常に人気があります。

11.OFF

" OFF "を選ぶとToneLabのキャビネット・モデルが無効になり、アンプ・モデルからの出力は直接MODULATION以降のエフェクト部に送られます。ギター・アンプの入力端子またはパワーアンプ／スピーカー・キャビネットに直接接続し、これらのアンプ(+キャビネット)の特性を生かしたいときに選びます。

アンプとキャビネットの組み合わせ例

基本的にはアンプ・モデルとキャビネット・モデルを自由に組み合せて多様なサウンドを作ることができますが、ここでは、本流ともいえる代表的な組み合せを紹介します。

アンプ・モデル	組み合わせキャビネット・モデル
TWEED 1x12	TWEED 1x12
TWEED 4x10	TWEED 4x10
BLACK 2X12	BLACK 2x12
AC15	VOX AC15
AC15TB	VOX AC15
AC30	VOX AC30
AC30TB	VOX AC30
UK BLUES	UK H30
UK 68P	UK H30
UK '80S	UK T75
UK '90S	UK T75
UK MODERN	UK T75 or US V30
US HiGAIN	US V30 or UK T75
RECTO	US V30
BOUTIQUE OD	UK H30を推奨
BOUTIQUE CLN	UK H30を推奨

NOTE　VOX AD412は最新製品のため、モデルとアンプとの過去の接続例はありません。(2003.3月現在)

その他の推奨例

モデルとしてとりあげたオリジナル・アンプを出しているいくつかのメーカーには、異なるスピーカー構成で同様なアンプを搭載した製品があります。ここではそれらのアンプに近づけるための組み合わせ例を紹介します。

アンプモデル	キャビネットモデル	同等モデル
BLACK 2x12	BLACK 2x10	Blackface Vibroluxタイプ・コンボ
BLACK 2x12	TWEED 4x10	Blackface Superタイプ・コンボ
TWEED 1x12	BLACK 2x10	Tweed Super
UK BLUES	VOX AC30	初期のBluesBreakerタイプ・コンボ
VOX AC15	VOX AC30	VOX AC15 Supertwin

これらの組み合わせは、定格出力、出力トランス、スピーカー・メーカーとタイプなどがオリジナルの製品のものと違うために、あくまでも近似であるということに注意してください。

ToneLabは、アンプとキャビネットの組み合わせやセッティングなどを、セレクターを回すだけで簡単に切り替えることができ、スピーカーを破損することはありません。

NOTE　使い方によっては破損する場合もありますので十分に注意してください。

簡単に様々な組み合せができるので、本当に気に入ったサウンドを得るには自分でいろいろな組み合わせを試し、そして判断するしかありません。良い結果も悪い結果もあるでしょうが、アンプとキャビネットの組み合せに決まりはないので、自由な発想で、気に入ったサウンドを手に入れてください。

NOTE　製品名はすべて該当所有者の商標であり、VOX社との関わりはいっさいありません。なお、製品名及び説明内容は、本機開発中に調査対象となった製品、あるいは合成可能なサウンド・モデルを説明するためにのみ使用しています。

C. PEDAL(ペダル)エフェクト

ペダル・エフェクトはアンプの手前に配置されています。

PEDAL	DRIVE: ツマミ[1]	TONE: ツマミ[2]	LEVEL: ツマミ[3]
COMP	“ SENS ” 1.0...10.0	“ ATTACK ” 1.0...10.0	“ LEVEL ” 0.0...10.0
ACOUSTIC	“ BASS ” 0.0...10.0	“ BODY ” 1.0...10.0	“ TREBLE ” 0.0...10.0
VOX WAH	“ CLOSE ” 1.0...10.0	“ PEDAL ” 0.0...10.0	“ OPEN ” 1.0...10.0
AUTO WAH	“ SENS ” 0.0...10.0	“ ATTACK ” 1.0...10.0	“ POLARITY ” uP, dn
U-VIBE	“ SPEED ” 1.00...10.00	“ MIX ” 0.0...10.0	“ DEPTH ” 0.0...10.0
OCTAVE	“ 1OCTAVE ” 0.0...10.0	“ DIRECT ” 0.0...10.0	“ 2OCTAVE ” 0.0...10.0
TREBLE BOOST	“ DRIVE ” 1.0...10.0	“ TONE ” 1.0...10.0	“ LEVEL ” 0.0...10.0
TUBE OD	“ DRIVE ” 1.0...10.0	“ TONE ” 1.0...10.0	“ LEVEL ” 0.0...10.0
FAT OD	“ DRIVE ” 1.0...10.0	“ TONE ” 1.0...10.0	“ LEVEL ” 0.0...10.0
FUZZ	“ DRIVE ” 1.0...10.0	“ TONE ” 1.0...10.0	“ LEVEL ” 0.0...10.0

1. OFF

PEDALエフェクトを使用しないときに選びます。入力をそのまま出力します。

2. COMP

粒のそろったスムーズでクリーンなフレーズを弾きたいとき、リードギターにほんのわずかなサスティーンをかけたいときはCOMPが最適です。パーカッシブなクリーンサウンドで人気の高いコンプレッサー・ペダルをモデリングしました。80年代、90年代のポップやファンクのリズムにピッタリです。また、歌うようなメローなサスティーンも得られます。

[1] “ SENS ”　1.0...10.0　感度を調整します。右に回すほどコンプレッション、サスティーンの量が増加します。

[2] “ ATTACK ” 1.0...10.0　アタックの強さを調整します。

[3] “ LEVEL ”　0.0...10.0　出力レベルを調整します。

3. ACOUSTIC

ギターとアンプのスイッチを入れないアコースティックなサウンドを弾きたいときに最適です。エレキ・ギター音をアコースティック・ギターの音に変換するシミュレーターです。特にBLACK 2x12アンプ・モデルと組み合わせた場合などは、シングル・コイル(つまり低出力)のネック(フロント)・ピックアップでの使用をお奨めします。

[1] “ BASS ”　0.0...10.0　低域の音色を調整します。

[2] “ BODY ”　1.0...10.0　ボディの共振を調整します。BASSとバランスを取りながら調整してください。

[3] “ TREBLE ” 0.0...10.0　高域の音色を調整します。

4. VOX WAH

伝説のVOXワウ・ペダル、V847をモデリングしました。喉からしぼり出すような独特のトーンにより、多くのプロ・ミュージシャンの人気の的となった唯一のペダルです。うまく使い分ければ、すすり泣くギター音から、何かに取り憑かれた男の遠吠えまで自在なサウンドが楽しめます。

[1] “ CLOSE ”　1.0...10.0　ワウを閉じた状態での音色を調整します。

[2] “ PEDAL ”　0.0...10.0　ワウの開き具合を調整します。

[3] “ OPEN ”　1.0...10.0　ワウを開いた状態での音色を調整します。

HINT　多くのギタリストがよく使うワザは、ワウ・ペダルの範囲内で「ツボ」を見つけて、いつもその位置にしておくことです。これは「スタック・ワウ」（引っかかったワウ）とも呼ばれたりしますが、その特有のサウンドはどんなミックス状態でも音抜けがいいので、とても効果的です。[TONE]ツマミでこの「スタック・ワウ」のツボを見つけることもできます。

PEDAL　オプションのフット・コントローラを接続すると、VOX WAHのペダル・ワウとして使用できます。

5. AUTO WAH

ピッキングのダイナミクス、つまり弦を弾く強さに追従して自動的に効果のかかるオート・ワウのモデリングです。クセがあるけれど便利なエフェクトです。

[1] “ SENS ”　0.0...10.0　ギターの音量に対する動作感度を調整します。

[2] “ ATTACK ”　1.0...10.0　反応の速さを調整します。

[3] “ POLARITY ” uP(UP), dn(DOWN)　動作方向を調整します。

6. U-VIBE

かの有名なフェイズ/ビブラート、Univox Uni-Vibeをモデリングしました。このエフェクトは回転スピーカーをシミュレートし、とても誘惑的で情感のあるトーンを作り出します。このペダルを作り出した人は、実はToneLabのパワーアンプに採用したValve Reactor技術を生み出した人でもあるのです。

[1] “ SPEED ” 1.00...10.00 [Hz]　ビブラートの速さを調整します。

[2] “ MIX ”　0.0...10.0　ダイレクトとビブラートのミックス量を調整します。

[3] “ DEPTH ”　0.0...10.0　ビブラートの深さを調整します。

PEDAL　オプションのフット・コントローラを接続してビブラートの速度をコントロールすることができます。

7. OCTAVE

1オクターブ、2オクターブ低い音を作り出し、原音に混ぜ合わせる事によって音に重圧間を与えるペダルのモデリングです。

[1] “ 1OCTAVE ” 0.0...10.0　1オクターブ低い音のミックス量を調整します。

[2] “ DIRECT ”　0.0...10.0　原音のミックス量を調整します。

[3] “ 2OCTAVE ” 0.0...10.0　2オクターブ低い音のミックス量を調整します。

NOTE　この種のタイプのペダル・エフェクトはあくまで単音に対してのみ効果があります。コードを弾いてしまうと収拾がつかなくなってしまいます。

8. TREBLE BOOST (TREB BST)

VOX AC30を使うことを想定してデザインされたトレブル・ブースターをモデリングしました。オーバードライブ・サウンドに「クランチ感」を加えます。

9. TUBE OD

ケバケバしい、趣味の悪い緑色のボックスに入ったオーバードライブ・ペダルをモデリングしたもので、その作り出すサウンドの温かみが何とも言えず素晴しいため、伝統のクラシックなエフェクトとなっています。

10. FAT OD
この世で最も嫌われているネズミを名称に持つペダルをモデリングしました。倍音豊かでスムーズなディストーションが得られます。

11. FUZZ
レトロっぽく、あつかましくて荒削り、そんなイメージを作ります。

[1] “ DRIVE ”　1.0...10.0　歪み(ブースト)の量を調整します。
[2] “ TONE ”　1.0...10.0　音色を調整します。
[3] “ LEVEL ”　0.0...10.0　出力レベルを調整します。

D. MOD(モジュレーション)エフェクト

キャビネットの後ろに配置されるモジュレーション系のエフェクトを設定します。5種類のモジュレーション系エフェクトから1つを選び設定します。外部コントロールでモジュレーションのスピードの調整もできます。

(EX): フット・コントローラ(オプション)のエクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。
(✻) : サウンド・エディタを使用したときに設定できるパラメータです。本体ではエディットできません。

MOD	SPEED: ツマミ[1]	MIX: ツマミ[2]	DEPTH: ツマミ[3]
CHORUS	“ SPEED ” 0.100...10.00	“ MIX ” 0.0...10.0	“ DEPTH ” 0.0...10.0
FLANGER	“ SPEED ” 0.100...10.00	“ RESO ” 0.0...10.0	“ DEPTH ” 0.0...10.0
PHASER	“ SPEED ” 0.100...10.00	“ RESO ” 0.0...10.0	“ DEPTH ” 0.0...10.0
TREMOLO	“ SPEED ” 1.00...10.00	“ SPREAD ” 0.0...10.0	“ DEPTH ” 0.0...10.0
ROTARY	“ SPEED ” 0.80...10.00	“ TIME ” 1.0...10.0	“ DEPTH ” 0.0...10.0

1. OFF
MODエフェクトを使用しないときに選びます。入力をそのまま出力します。

2. CHORUS
スタンダードの豊かなアナログ・コーラス・ユニットを完全ステレオ仕様にしたモデリングです。
[1] “ SPEED ”　0.100...10.00　[Hz](EX)　モジュレーションのスピードを調整します。
[2] “ MIX ”　0.0...10.0　エフェクト音のミックス量を調整します。
[3] “ DEPTH ”　0.0...10.0　モジュレーションの深さを調整します。
(✻)　MANUAL　1.0...10.0　スイープの中心周波数を調整します。

3. FLANGER
「両手タッピングのゴッドファーザー」と多くの人が崇める現代の有名ギタリストを生んだ、真にクラシックなアナログ・フランジャーのモデリングです。
[1] “ SPEED ”　0.100...10.00 [Hz]　モジュレーションのスピードを調整します。
[2] “ RESO(RESONANCE) ” 0.0...10.0　レゾナンスの量を調整します。
[3] “ DEPTH ”　0.0...10.0　モジュレーションの深さを調整します。

(*) MANUAL 1.0...10.0 (EX) スイープの中心周波数を調整します。

フット・コントローラでコントロールする場合は" DEPTH "を0に設定すると効果的です。

" DEPTH "が10の場合はオリジナルのフランジャー同様に" MANUAL "は動作しません。

(*) MIX 0.0...10.0 エフェクト音のミックス量を調整します。

4. PHASER

バナナ色のボックスに入った人気の高いアナログ・フェイザーのモデリングです。

[1] " SPEED " 0.100...10.00 [Hz] (EX) モジュレーションのスピードを調整します。

[2] " RESO(RESONANCE) " 0.0...10.0 レゾナンスの量を調整します。

[3] " DEPTH " 0.0...10.0 モジュレーションの深さを調整します。

(*) MANUAL 1.0...10.0 スイープの中心周波数を調整します。

5. TREMOLO

BLACK 2x12に搭載されている評判の高いトレモロ回路のモデリングです。

SPREADの設定で、左右に広がるパンニング効果も得られます。

[1] " SPEED " 1.00...10.00 [Hz] (EX) トレモロのスピードを調整します。

[2] " SPREAD " 0.0...10.0 左右の広がり感を調整します。

[3] " DEPTH " 0.0...10.0 トレモロの深さを調整します。

6. ROTARY

ステレオ仕様のロータリー・スピーカーのモデリングです。

(トップ・パネルでもオプションのフット・コントローラでも)ROTARYのスピードを調整すると、実際のロータリー・スピーカーのように一定時間後に設定したスピードに到達します。これは、スピーカーの回転を制御するモーターが速度を切り替えるのに数秒かかるのを再現しているからです(" TIME "で調整)。

[1] " SPEED " 0.80...10.00 [Hz] (EX) スピーカーの回転スピードを調整します。

[2] " TIME " 1.0...10.0 回転スピードの変化にかかる時間を調整します。

[3] " DEPTH " 0.0...10.0 モジュレーションの深さを調整します。

E. DELAY(ディレイ)エフェクト

キャビネットの後ろに配置されるディレイ系のエフェクトを設定します。3種類のディレイ系エフェクトから1つを選び設定します。どのディレイも最大ディレイ・タイムは2秒です。

(EX): フット・コントローラ(オプション)のエクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。

(*) : サウンド・エディタを使用した時に設定できるパラメータです。本体ではエディットできません。

DELAY	FINE: ツマミ[1]	MIX: ツマミ[2]	FEEDBACK: ツマミ[3]
DELAY/TAPE ECHO/MULTI HEAD	“ TIME ” 0...2000 [ms]	“ MIX ” 0.0...10	“ FEEDBACK ” 0.0...10

1. OFF

DELAYエフェクトを使用しないときに選びます。入力をそのまま出力します。

2. DELAY

原音とディレイ音の音質の差がほとんどない、高品質のデジタル・ディレイです。

3. TAPE ECHO (T ECHO)

最も評判の高いアナログ・テープ・エコーのモデリングです。もともとエコーは再生ヘッドで作られ、ディレイ・タイムはモーターのスピードを変化させて設定します。プロ・ミュージシャンがこの「原始的な」テープ・エコーを好むのは、温かく暗いエコーを生むからです。

4. MULTI HEAD (MULTI HD)

3ヘッドのテープ・エコーのモデリングです。各ヘッドから生じるそれぞれのエコーにはフィードバック・ループがあり、複雑で温かい「マルチ・タップ」エコー効果が得られます。

[1] “ TIME ”　0...2000　現在のディレイ・タイムを基準値として-64...+63[ms]の間で微調整します。

[2] “ MIX ”　0.0...10.0　ディレイ音のミックス量を調整します。

[3]“ FEEDBACK ” 0.0...10.0　フィードバックの量を調整します。

NOTE　FEEDBACKを上げ過ぎると、収拾がつかなくなるので注意してください。

TAP　0...2000　ディレイ・タイムを設定します。[TAP]スイッチを2回押した間隔でスピードが決定します。

(*) TONE　1.0...10.0　(TAPE ECHO/MULTI HEAD) ディレイ音の音色を調整します。

(*) MODE　1, 2, 3, 4, 5 (MULTI HEAD) 使用するヘッドの組み合わせを設定します。

1: 通常のエコー。
2: 「タ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。
3: 「タッ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。
4: 「タ・タ・ッタ」というリズムでディレイ音を再生。
5: 「タ・タ・タ・タ」というリズムでディレイ音を再生。

INPUT LEVEL: (EX)　オプションのフット・コントローラでコントロールするディレイの入力レベルです。

F. REVERB(リバーブ)エフェクト

キャビネットの後ろに配置されるリバーブ系のエフェクトを設定します。3種類のリバーブ系エフェクトから選び設定します。

(EX): フット・コントローラ(オプション)のエクスプレッション・ペダルでのコントロールが可能なパラメータです。

REVERB	LO DAMP: ツマミ[1]	MIX: ツマミ[2]	HI DAMP: ツマミ[3]
SPRING/ROOM/PLATE	“ LO DAMP ” 0.0...10.0	“ MIX ” 0.0...10.0	“ HI DAMP ” 0.0...10.0

1. OFF

REVERBエフェクトを使用しないときに選びます。入力をそのまま出力します。

2. SPRING

最も人気のあるスプリング・リバーブのモデリングです。

3. ROOM

中程度の部屋、小さなホールの残響をモデリングしました。

4. PLATE

プロの録音スタジオでよく使われるプレート・リバーブを忠実に再現しました。

[1] “ LO DAMP ”	0.0...10.0	低域の減衰量を調整します。
[2] “ MIX ”	0.0...10.0	リバーブ音のミックス量を調整します。
[3] “ HI DAMP ”	0.0...10.0	高域の減衰量を調整します。
INPUT LEVEL	(EX)	オプションのフット・コントローラでコントロールするリバーブの入力レベルです。

チューナー

本機はオート・クロマチック・チューナーを内蔵しています。
このチューナーは基準ピッチAの周波数を438Hz～445Hzの範囲で調整(キャリブレーション)できます。

チューニングの方法

1. [TUNER]スイッチ(3.7)を押します。オート・クロマチック・チューナーが起動します。
2. 接続したギターの弦を弾くと、一番近い音名とメーターがネーム・ディスプレイ(3.8)に表示されます。

	音名 #	メーター
低い方にずれているとき	A'	
高い方にずれているとき	A'	
チューニングが合っているとき	A'	

音名は次のように表示されます。

C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	A	A#	B
C	C'	D	D'	E	F	F'	G	G'	A	A'	B

3. メーターを見ながらギターを微調整します。
4. チューニングが終わったら[TUNER]スイッチをもう1度押して、元のモードに戻ります。

PEDAL　接続したオプションのフット・コントローラでチューナーを起動することができます。この場合、出力をミュートしながらチューニングすることができます(サイレント・チューニング・モード)。サイレント・チューニング・モードにしているときにチューナー機能を解除すると、同時にミュートも解除され、音が出力されます。ToneLabでチューナー機能が解除されるのは、[TAP]スイッチ以外のスイッチや[PEDAL]セレクターを操作したときです。

チューナーのキャリブレーション調整

本機の電源を入れると、内蔵チューナーは基準ピッチAの周波数が440Hz(コンサート・ピッチ)になります。この基準ピッチを変更すること(キャリブレーション)ができます。438Hz～445Hzの範囲で調整できます。

- チューナー起動中はバリュー・ディスプレイ(3.10)に基準ピッチの周波数が表示されています。バリュー・ツマミ[3](2.5)を回して調整します。

NOTE　変更したキャリブレーションは電源をオフにすると無効となり、再び電源をオンにすると自動的に440Hzになります。

オプション・フット・コントローラによるコントロール

オプションのフット・コントローラ(VC-4、VC-12)を使用することによって、足元から次のコントロールをすることができます。

- フット・スイッチによるプログラムの切り替え
- ボリューム・ペダルによる音量コントロール
- エクスプレッション・ペダルによるエフェクト・パラメータのコントロール
- フット・スイッチによる個々のエフェクトのオン/オフ
- フット・スイッチによるチューナーの起動
- フット・スイッチによるディレイ・タイムの設定(タップ操作)

NOTE フット・コントローラの操作方法や接続方法等については、フット・コントローラの取扱説明書を参照してください。

NOTE VC-4 を使用してプログラムを切り替える場合、以下のように連続した4つのバンク内に限定されます。

本 機	VC-4
1-1～4-4	1-1～4-4
5-1～8-4	1.-1～4.-4
9-1～12-4	1-1～4-4
13-1～16-4	1.-1～4.-4
17-1～20-4	1-1～4-4
21-1～24-4	1.-1～4.-4

← VC-4からは各枠内の範囲(16 プログラム)で選択可能

NOTE VC-12とToneLabではプログラムのバックアップ/リストアはできません。

HINT フット・コントローラの操作により、他のMIDI機器を同時にコントロールすることができます。詳しくは「MIDIによるコントロール」(p.40)を参照してください。

エクスプレッション・ペダルの設定
(UTILITY "EXP⊿ ***" — "EXP INIT")

オプションのフット・コントローラのエクスプレッション・ペダルで本機をコントロールする場合は、どのエフェクトをどのようにコントロールするかを本機側で設定します。次の内容について設定します。

" EXP⊿ ∗∗∗ " エクスプレッション・ターゲット(コントロールするエフェクト)
" EXP MIN " エクスプレッション・ターゲット・レンジ(最小値)
" EXP MAX " エクスプレッション・ターゲット・レンジ(最大値)
" EXP INIT " エクスプレッション・ペダルによるコントロールの初期化設定

NOTE " EXP INIT "は設定を変更するとその設定は自動的に記憶されます。" EXP INIT "以外はプログラムごとに設定します。保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [UTILITY]スイッチ(3.4)を押してスイッチを点灯させます。

2. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に" EXP⊿ ∗∗∗ "を表示します。スイッチを押すたびにパラメータが切り替わります。

3. バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)でターゲットを設定します。

" EXP⊿ ＊＊＊ "では、エクスプレッション・ターゲット(コントロールするエフェクト)を選びます。選択したエフェクトのタイプによってコントロールされるパラメータが異なります。

エクスプレッション・ターゲット		タイプ	コントロールされるパラメータ
" EXP⊿ --- "	何もコントロールしない	------	------
" EXP⊿ PDL "	PEDALエフェクト	VOX WAH	VOX WAHの" PEDAL "パラメータ
		U-VIBE	U-VIBEの" SPEED "パラメータ
" EXP⊿ MOD "	MODULATIONエフェクト	FLANGER以外	" SPEED "パラメータ
		FLANGER	" MANUAL "パラメータ
" EXP⊿ DLY "	DELAYエフェクト	すべてのタイプ	DELAYエフェクトの入力レベル
" EXP⊿ REV "	REVERBエフェクト	すべてのタイプ	REVERBエフェクトの入力レベル

HINT PEDALエフェクトのタイプを" VOX WAH "、" U-VIBE "に設定したとき、エクスプレッション・ターゲットが自動的に" EXP⊿ PDL "に設定されます。このとき他の操作をせずにPEDALエフェクトを他のタイプに戻すと、ターゲットの設定も自動的に元に戻ります。

NOTE ターゲットのエフェクトが" OFF "の場合には何もコントロールされません。PEDALエフェクトの場合には" VOX WAH "または" U-VIBE "以外のときは何もコントロールされません。

4. [2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に" EXP MIN "を表示します。

5. バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)でターゲット・レンジの最小値を設定します。
エクスプレッション・ペダルの操作に対して、ターゲット・パラメータが変化する範囲を設定します。" EXP MIN "で範囲の下限を、" EXP MAX "で上限をそれぞれ設定します。
エクスプレッション・ペダルを操作したとき、ターゲット・パラメータはここで設定した範囲で変化します。

6. 手順4、5を参照して、" EXP MAX "を設定します。

7. [2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に" EXP INIT "を表示します。

8. バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)でコントロールの初期化設定をします。

" EXP INIT "は、エクスプレッション・ペダルによるコントロール情報(ペダルの位置)を、プログラムを切り替え後も引き継ぐかどうかを設定します。
" OFF "に設定した場合、プログラムを切り替えると同時にエクスプレッション・ターゲットに設定されているパラメータが現在のペダルの位置に応じて変化します。
" On "に設定した場合、プログラムを切り替えた直後はプログラム保存時と同じサウンドになります(コントロール情報が初期化されます)。

NOTE " EXP INIT "の設定はプログラムには保存されません。全プログラムに共通の設定となります。

NOTE " OFF "に設定されていても、電源を投入してから1度もエクスプレッション・ペダルを操作していない場合はターゲット・パラメータは変化しません。

9. [TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押して、元いたモードに戻ります。

MIDIによるコントロール

MIDIはMusical Instrument Digital Interfaceの略で、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。MIDI 機器同士をMIDI ケーブルで接続することで、異なるメーカーの電子楽器やコンピュータと演奏情報のやりとりが行えます。

本機は、MIDIを使って外部MIDI機器との間で次のことができます。

- 本機または接続したオプションのフット・コントローラを操作して、外部MIDI機器のプログラムを切り替える。外部MIDI機器から本機のプログラムを切り替える。→「プログラム・チェンジ」
- 接続したオプションのフット・コントローラを操作して、外部MIDI機器をコントロールする。
  外部MIDI機器から本機の音量、エフェクトなどをコントロールする。→「コントロール・チェンジ」
- サウンド・エディタなどを使用してパラメータをエディットする。→「パラメータ・チェンジ」
- 本機のプログラム・データをバックアップ(保存)/リストア(読み込み)する。→「プログラム・データのバックアップ(保存)/リストア(読み込み)」

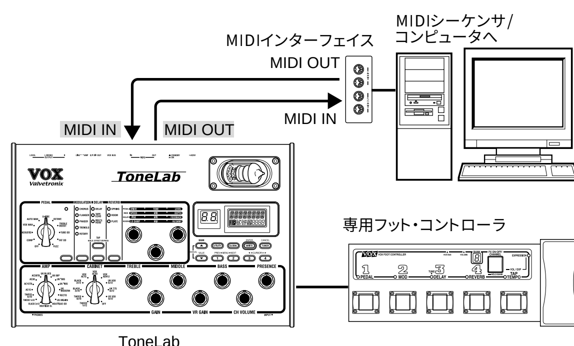
NOTE 上記のコントロールを行うには本機と外部MIDI機器をMIDIケーブルで接続し、MIDIチャンネルを合わせる必要があります。→「MIDI機器/コンピュータとの接続」「MIDIチャンネルを設定する」

NOTE ここでの各設定を変更すると、その値は自動的に記録されます。設定が済んだら、[TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押して元いたモードに戻ってください。

NOTE 外部MIDI機器が各MIDI情報を認識しない場合は、それぞれのコントロールは行えません。本機と各機器の「MIDIインプリメンテーション・チャート」を確認してください。

MIDI機器/コンピュータとの接続

フット・コントローラを接続した本機から外部MIDI機器をコントロールする場合は、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。
MIDIシーケンサなどの外部MIDI機器から本機をコントロールする場合は、本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。
MIDIシーケンサやサウンド・エディタなどと接続する場合は、通常、相互にデータをやりとりしますので、本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子、本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をそれぞれMIDIケーブルで接続します。



NOTE コンピュータとToneLabを接続する場合は、MIDIインターフェイスが必要になります。
なお、USB-MIDIインターフェイス機器によっては、ToneLabのMIDIエクスクルーシブ・メッセージを送受信できない場合があります。

MIDIチャンネルを設定する (GLOBAL “MIDI CH”)

外部MIDI機器とデータをやりとりするときは、本機のMIDIチャンネルと外部MIDI機器のMIDIチャンネルを合わせます。以下の手順でMIDIチャンネルを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチ(3.5)を押してスイッチを点灯させます。
2. ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ MIDI CH ”を表示します。他のパラメータが選ばれているときは、[1/PREV]スイッチ(3.3)を押して表示してください。
3. バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で本機のMIDIチャンネルを設定します。
4. 接続した外部MIDI機器のMIDIチャンネルを設定します。
   外部MIDI機器のMIDIチャンネル設定は、接続する機器の取扱説明書を参照してください。

プログラム・チェンジ (GLOBAL “PCHG OUT”)

本機や本機に接続したフット・コントローラでプログラムを切り替えると、MIDI OUT端子からプログラム・チェンジ・メッセージが送信され、外部MIDI機器のプログラムが切り替わります。また、本機がプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、本機のプログラムが自動的に切り替わります。
ここでは、本機や本機に接続したフット・コントローラでプログラムを切り替えたときに、MIDI OUT端子からプログラム・チェンジ・メッセージを送信するか、しないかを設定します。

NOTE 本機で扱えないプログラム・チェンジ・ナンバーは無視されます。本機で扱える範囲については「MIDIインプリメンテーション・チャート」(p.48)を参照してください。

NOTE 本機がマニュアル・モードのときはプログラム・チェンジを無視して、プログラムは切り替わりません。プログラム・セレクト・モードでは、常にプログラム・チェンジを受信します。

1. [GLOBAL]スイッチ(3.5)を押してスイッチを点灯させます。
2. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ PCHG OUT ”を表示します。
3. プログラム・チェンジ・メッセージを送信するかしないかを設定します。バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で設定します。
   “ OFF ”: プログラム・チェンジ・メッセージを送信しません。
   “ On ”: プログラム・チェンジ・メッセージを送信します。

コントロール・チェンジ (GLOBAL “CCHG I/O”)

本機に接続したオプション・フット・コントローラのEXPRESSIONペダル、VOLUMEペダル、[TAP]スイッチなどの各コントローラを操作するとコントロール・チェンジ・メッセージを送信します。外部MIDI機器のコントロール・チェンジ・ナンバーに対応する機能をリアルタイムでコントロールすることができます。

また外部MIDI機器からコントロール・チェンジ・メッセージを受信すると、フット・コントローラを操作するのと同じように本機がコントロールされます。
外部MIDI機器からコントロールできる機能については手順4を参照してください。
本機がコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するか、しないかを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチ(3.5)を押してスイッチを点灯させます。

2. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に" CCHG I/O "を表示します。

3. すべてのコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するかしないかを設定します。バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で選びます。
" On "では送受信します。" OFF "では送受信しません。

NOTE ここでの設定が" OFF "のときは、手順4で個別にコントロール・チェンジ・ナンバーを設定してもすべてのコントロール・チェンジ・メッセージを送受信しません。

4. 送受信するかしないかを設定する各コントローラを[3/◀]、[4/▶]スイッチを押して選びます。次の順番で切り替わります。
" EXP PDL ": EXPRESSIONペダル・コントロール
" VOL PDL ": VOLUMEペダル・コントロール
" TAP SW ": TAPスイッチ・オン/オフ
" PEDAL FX ": PEDALエフェクト・オン/オフ
" MOD FX ": MODULATIONエフェクト・オン/オフ
" DELAY FX ": DELAYエフェクト・オン/オフ
" REVRB FX ": REVERBエフェクト・オン/オフ

5. 各コントローラごとにコントロール・チェンジ・メッセージを送受信するかしないかを設定します。送受信する場合はコントロール・チェンジ・ナンバーを設定します。設定するコントローラを選び、バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)を使って設定します。
" OFF ": コントロール・チェンジ・メッセージを送受信しません。
" CC00 "〜" CC95 ": コントローラを操作すると、設定したコントロール・チェンジ・ナンバー0〜95でメッセージを送信します。また外部MIDI機器から設定したコントロール・チェンジ・ナンバーでメッセージを受信すると本機がコントロールされます。

パラメータ・チェンジ (GLOBAL "SYEX OUT")

本機のツマミやスイッチを操作してパラメータの値を変更すると、システム・エクスクルーシブ・メッセージによってパラメータ・チェンジ等の情報を送信します。
本機のパラメータを外部に送信する場合は" SYEX OUT "を" On "に設定します。通常" SYEX OUT "を" On "にするのは、サウンド・エディタを使用するときです。
本機がパラメータ・チェンジを送信するか、しないかを設定します。

1. [GLOBAL]スイッチ(3.5)を押してスイッチを点灯させます。

2. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に" SYEX OUT "を選びます。

3. パラメータ・チェンジ等の情報を送信するかしないかを設定します。バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で選びます。
" OFF ": パラメータ・チェンジ等の情報を送信しません。
" On ": パラメータ・チェンジ等の情報を送信します。

NOTE パラメータ・チェンジ等のシステム・エクスクルーシブ・メッセージを受信すると" SYEX OUT "の設定に関わらず、本機のパラメータやモード、プログラム番号が変わります。

プログラム・データのバックアップ(保存)/リストア(読み込み)(GLOBAL "DUMP CUR" , "DUMP ALL")

プログラムなど本機の全データはシステムエクスクルーシブ・メッセージとして送受信することができます。システムエクスクルーシブ・メッセージを外部機器との間で送受信することをデータ・ダンプといいます。データ・ダンプを行うと、MIDIデータ・ファイラやシステムエクスクルーシブ・メッセージが送受信可能なシーケンサなどの外部機器に、本機で作ったプログラムをバックアップ(保存)できます。必要なときに本機にリストア(読み込み)することによって、たくさんのプログラムを入れ替えて使用することができます。また、2台のToneLabを接続してプログラム・データをコピーすることができます。
プログラム・データの転送には2種類あり、1プログラム単位で送信する方法と、全プログラムを1度に送信する方法があります。全プログラムを1度に送信する場合はマニュアル・モードの設定やMIDIに関する設定なども含む本機のすべてのデータが送られます。

NOTE データ・ダンプの送信は、" SYEX OUT "の設定に関わらず行うことができます。2台のToneLab間でプログラム・データをやりとりする場合は、" SYEX OUT "を" OFF "に設定することをおすすめします。" SYEX OUT "が" On "になっている状態でツマミ等を操作すると、もう一台のToneLabで意図しないパラメータが変わってしまうことがあります。

バックアップ(保存)

1. 本機のMIDI OUTとデータ・ダンプを受信する機器のMIDI INを接続します。

2. 1つのプログラムだけを送信する場合は、プログラム・セレクト・モードで送信するプログラムを選びます。また、マニュアル・モードの設定を送信する場合は、マニュアル・モードを選んでください。

3. [GLOBAL]スイッチ(3.5)を押してスイッチを点灯させます。

4. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に" DUMP CUR "または" DUMP ALL "を表示します。
" DUMP CUR "(カレント・プログラム・データ・ダンプ):
現在選んでいる1つのプログラムのデータを送信します。プログラムをエディット中(保存してい

MIDI/DIGITAL

ない状態)のときは現在の設定を送信します。
“ DUMP ALL ”(オール・データ・ダンプ): 本機のすべてのデータを送信します。

5. データ・ダンプを受信する機器がデータを記録できる状態にします。

NOTE 詳しくはデータ・ダンプを受信する機器の取扱説明書を参照してください。

6. 本機の[WRITE/ENTER]スイッチ(3.6)を押すと送信を開始します。送信が終了すると“ COMPLETE ”を表示し、手順4の画面に戻ります。(“ DUMP ALL ”で送信している間は“ SEND ”と表示されます。)

NOTE データの送信中は、本機またはフット・コントローラのスイッチやノブに触れないでください。また、絶対に本機の電源をオフにしないでください。

リストア(読み込み)

1. 本機のMIDI INとデータ・ダンプを送信する機器のMIDI OUTを接続します。

2. 送信する側のMIDI機器と本機のMIDIチャンネルを合わせます。一度外部MIDI機器に送信したデータを再び本機で受信するときは、送信時のMIDIチャンネルに合わせてください。

3. データ・ダンプする機器からデータを送信します。
全データ受信中は“ RECEIVE ”が表示され、正常に終了すると“ COMPLETE ”が表示されます。エラーが発生すると“ ERROR ”が表示されますので、送信し直してください。

NOTE 詳しくはデータ・ダンプを送信する機器の取扱説明書を参照してください。

NOTE データの受信中は、本機またはフット・コントローラのスイッチやノブに触れないでください。また、絶対に本機の電源をオフにしないでください。

4. 1プログラム単位のデータをプログラム・セレクト・モードで受信した場合は、保存先のバンクとチャンネルを選び、保存してください。(p.18)

NOTE 保存しないと、本機のプログラム・メモリに書き込まれません。
マニュアル・モードで受信した場合は、アンプ・セクション以外の設定が自動的に上書きされるので保存する必要はありません(アンプ・セクションの設定は、セレクター、コントローラの物理的な位置によって決まるため変更されません)。

HINT 全データを受信した場合は、マニュアル・モードのアンプ・セクションの設定を除くすべてのデータが自動的に上書きされます。ただし、プログラム・セレクト・モードで受信した場合は、エディット中のデータ(エディット・バッファ)は変更されません。

デジタル出力レベルの調整 (GLOBAL “DOUT LVL”)

DIGITAL OUT端子から出力する音量を設定します。

1. [GLOBAL]スイッチ(3.5)を押してスイッチを点灯させます。
2. [1/PREV]または[2/NEXT]スイッチ(3.3)を押して、ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ DOUT LVL ”を表示します。
3. DIGITAL OUT端子からのデジタル出力レベルを“ -12 ”〜“ 12 ”(dB)の範囲で調整します。“ 0 ”(dB)が標準レベルです。バリュー・ツマミ[3](2.5)または[▲]、[▼]スイッチ(3.2)で設定します。

NOTE　レベルを“ 0 ”(dB)より上げると、プログラムによってはデジタル出力が歪んでしまうことがあります。

NOTE　変更した値は自動的に記録されます。設定が済んだら、[TUNER/CANCEL]スイッチ(3.7)を押して元いたモードに戻ってください。

工場出荷時の状態に戻す(再ロード)

本機のプログラムや、すべての設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

NOTE　この操作を完了すると自分で作ったプログラムなど本機に保存してあったすべてのプログラムはすべて消去され、出荷時のプログラムが読み込まれます。また、MIDIの設定やマニュアル・モードで行なった設定等も初期化されます。保存しておきたい設定がある場合は、データ・ダンプ等でデータをバックアップするか裏表紙の折り込みにある「プログラム・シート」に設定内容を書き留めておいてください。

1. [▲]、[▼](3.2)、[TUNER/CANCEL](3.7)の3つのスイッチを押しながら、[STANDBY]スイッチを押して電源を入れます。
   バンク・ディスプレイ(3.1)の“ P ”と、CHANNEL SELECT [1]〜[4]スイッチ(3.3)が点滅し、ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ RELOAD? ”と表示されます。押していたすべてのスイッチから手を離します。
2. 再ロードの作業を中止するときは[TUNER/CANCEL]スイッチを押します。
3. [WRITE/ENTER]スイッチ(3.6)を押すと、ネーム・ディスプレイ(3.8)に“ LOADING ”が表示され、再ロードが始まります。
   再ロードが完了するとネーム・ディスプレイに“ COMPLETE ”が表示され、自動的にプログラム・セレクト・モードに切り替わります。

NOTE　再ロード中は、絶対に電源をオフにしないでください。

故障とお思いになる前に

故障かな？と思ったら、まず以下のことを確認してください。症状が改善されない場合は、お近くの販売店またはコルグ・サービス・センターまでお問い合わせください。

1. [STANDBY]スイッチをオンにしても電源が入らない

- リア・パネルの～AC9V端子にAC/ACパワー・サプライが接続されていますか?
- コンセントにAC/ACパワー・サプライが接続されていますか?
- コンセントが故障していませんか?
- AC/ACパワー・サプライが損傷していませんか?

2. 音が出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか?
- ギター・シールドが正しく接続されていますか?
- ギター・シールドが断線していませんか?
- リア・パネルのOUTPUT [LEVEL]ノブが小さい値になっていませんか?
- [GAIN]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[VR GAIN]、[CH VOLUME]の設定を確認してください。アンプ・タイプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]の値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。
  またペダル・エフェクトを使用している場合は“ DRIVE ”[1]、“ LEVEL ”[3]の設定も確認してください。
- マニュアル・モードの場合、ペダル・エフェクトの“ DRIVE ”[1]、“ LEVEL ”[3]、[GAIN]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[VR GAIN]、[CH VOLUME]のコントロール類が0または最小値になっていませんか?
- 接続したフット・コントローラでミュート操作を行いませんでしたか? ミュートを解除してください。

3. OUTPUT端子やPHONES端子から音が出ない

- OUTPUT [LEVEL]ツマミが小さい値になっていませんか?

4. DIGITAL OUT端子から信号が出力されない、または歪む

- GLOBAL“ DOUT LVL ”が小さい値になっていませんか? または大き過ぎる値になっていませんか?

5. モジュレーション、ディレイ、リバーブのエフェクトがかからない

- 各エフェクトLEDが点灯していますか？
  LEDが消灯しているときはエフェクトがオフになっています。
  [TYPE]スイッチを押してエフェクト・タイプを選んでください。
- モジュレーションの“ DEPTH ”、ディレイ、リバーブの“ MIX ”がそれぞれ小さい値になっていませんか？
  [TYPE]スイッチでエフェクトを選び該当するバリュー・ツマミを調整してください。

- バイパスしていませんか エフェクト・タイプLEDが点滅していませんか？
  その場合は[TAP]スイッチを押してバイパスを解除してください。エフェクト・タイプLEDが点灯に変わります。

6. ACOUSTICの使用中に高音が歪む

- ドライブをかけすぎていませんか？
- 出力の大きいギター(ハムバッキング・タイプのピックアップ)を使用していますか？
  ギターの音量を下げる、または[GAIN]の設定を下げてください。

7. ギター・アンプに接続した音が歪む、不自然な音がする

- [AMP/LINE]スイッチが“ LINE ”になっていませんか？
- [LEVEL]が上がりすぎていませんか？

MIDIインプリメンテーション・チャート

[VOX Valvetronix]

Date : 2002. 12.20

ToneLab

MIDI インプリメンテーション・チャート

ファンクション…		送　　信	受　　信	備　　考
ベーシック チャンネル	電源 ON 時 設定可能	1 − 16 1 − 16	1 − 16 1 − 16	記憶される
モード	電源 ON 時 メッセージ 代用	× × **************	3 × ×	
ノート ナンバー：	音域	× **************	× **************	
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	× ×	× ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	0 − 95	○	○	エフェクト・コントロール　*C

プログラム チェンジ：　設定可能範囲	○ 0 − 95 **************	○ 0 − 95 0 − 95	＊P
エクスクルーシブ	○	○	パラメータ・コントロール プログラム・データ・ダンプ　＊E＊1
コモン　：ソング・ポジション ：ソング・セレクト ：チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム　：クロック ：コマンド	× ×	× ×	
その他　：ローカル ON ／ OFF ：オール・ノート・オフ ：アクティブ・センシング ：リセット	× × × ×	× × × ×	

備考
*P: GLOBAL "PCHG OUT" が On のとき送信する。
*C: GLOBAL "CCHG I/O" が On のとき、コントローラごとの設定に従って送受信する。
*E: GLOBAL "SYEX OUT" が On のとき送信する（リクエスト・メッセージへの応答については "SYEX OUT" の設定に関わらず送信する）。
*1: 本機専用のメッセージ以外に、デバイス・インクワイアリーに対応する。

モード 1： オムニ・オン、ポリ　　モード 2： オムニ・オン、モノ　　○： あり
モード 3： オムニ・オフ、ポリ　　モード 4： オムニ・オフ、モノ　　×： なし

＊ MIDI Implementationの配布については、コルグお客様相談窓口にお問い合わせください。

仕 様

アンプ・タイプ数：16

キャビネット・タイプ数：10

エフェクト数
ペダル・タイプ：10
モジュレーション・タイプ：5
ディレイ・タイプ：3
リバーブ・タイプ：3
ノイズ・リダクション：1

プログラム数：96 (24バンクx 4チャンネル)

オーディオ入力
INPUT x 1

オーディオ出力
OUTPUT x 2 (バランス/アンバランス TRS)
DIGITAL OUT x 1 (S/P DIFフォーマット: IEC60958、EIAJ CP-1201)
PHONES x 1
[AMP/LINE]スイッチ、[LEVEL]ツマミ(OUTPUT、PHONES対応)

真空管
12AX7 (ECC83) x1

信号処理
A/D変換：20bit
D/A変換：20bit
サンプリング周波数：44.1KHz

チューナー
測定範囲：A0〜C7（27.5Hz〜2093Hz）
キャリブレーション：A=438Hz〜445Hz

その他
VOX BUS x 1、MIDI IN x 1、MIDI OUT x 1、〜AC9V x 1、STANDBYスイッチ

消費電力：18W

外形寸法(W x D x H)：319 x 213 x 79(mm)

重量：2.5 kg

付属品：AC/ACパワー・サプライ 9VAC 3.0A (KA161EV)

オプション：VC-4、VC-12 フット・コントローラ

* 仕様および外観は改良のため予告無く変更される場合があります。

プログラム・リスト

1-1 BLIZZARD

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK MODERN	UK H30 4x12	4.8	6.4	5	3.7	7.9	5	3.4
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.27	3.3	1.3	7.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	440	4	4	ROOM	3	4.4	3.4	

1-2 HYSTERIA

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BLACK 2X12	BLACK 2X12	3.3	3.3	2.5	2	2.6	10	4
PEDAL	SENS	ATTACK	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
COMP	1	4.4	6.4	FLANGER	0.12	0	7.5	2.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	501	3.3	2.9	ROOM	2.4	3.2	2.7	

1-3 BIZKIT

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
RECT	US V30 4X12	6.2	1	3.2	6.3	7.4	6.4	3.5
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	7.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	2.7	2.4	2.6	

1-4 MAYTONE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC30	VOX AC30	4.7	4.9	4.4	5.3	10	10	2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TREBLE BOOST	6.7	7.6	6.5	CHORUS	0.2	4.8	1.4	3.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	

2-1 CLN-EDGE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC30	VOX AC30	7.1	5.2	4.6	4.8	2.1	10	7.7
PEDAL	SENS	ATTACK	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
COMP	1.5	6.4	4.9	CHORUS	0.24	6.4	1.3	4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
MULTI HEAD	540	3.1	2.6	PLATE	1.6	1.2	2	

2-2 AC15TREM

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC15	VOX AC15	6.3	3.3	6.6	10	4.2	10	4.8
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	SPREAD	DEPTH	NR
TREBLE BOOST	4.4	10	10	TREMOLO	3.6	0	3.3	2.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	2.8	2.8	2.7	

2-3 BEETLE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC30TB	VOX AC30	4.5	3.5	3.5	4.8	4.7	10	3
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	3.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	164	3.6	0	OFF	—	—	—	

2-4 QUEEN FL

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC30	VOX AC30	4.8	4.7	7.9	4.5	6.1	10	2.2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
TREBLE BOOST	5.9	9.2	8.1	FLANGER	0.115	0	7.4	2.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	ROOM	2.5	5	4.4	

3-1 THRASH

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK MODERN	UK T75 4X12	5.6	0	10	3.6	9.3	4.4	5.5
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	

3-2 ANGUS

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK BLUES	UK H30 4X12	3.6	6.7	7.9	3.6	10	10	1.4
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	3.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	ROOM	6	1.5	7.1	

3-3 VIABLE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK '90S	UK T75 4X12	2.6	7.2	8.1	3.1	7.6	5	3.5
PEDAL	SENS	ATTACK	POLARITY	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
AUTO WAH	5	5	UP	OFF	—	—	—	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	527	3.7	2.7	SPRING	2.4	2.5	2.3	

3-4 PRIEST

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK '80S	UK T75 4X12	4	5.3	10	2.8	10	10	2.2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	5
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	ROOM	2.9	2.8	2.7	

4-1 NASHVILL

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 1X12	TWEED 1X12	3.7	2.6	5	4.3	3.3	10	6.1
PEDAL	SENS	ATTACK	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
COMP	2	4.4	4	OFF	—	—	—	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
DELAY	160	4.8	0	PLATE	0.8	2.6	0	

4-2 JIMIROTO

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BLACK 2X12	BLACK 2X12	3.3	3.7	6.2	2.6	3.1	10	3.8
PEDAL	SPEED	MIX	DEPTH	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
U-VIBE	1	5	8.9	OFF	—	—	—	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	4	1.5	1.2	

4-3 X-FIRE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 4X10	TWEED 4X10	1.8	8.8	6.1	6.5	3.7	10	2.2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TUBE OD	6.7	5.8	8.6	OFF	—	—	—	4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	340	2.2	0	SPRING	4	2.2	2.1	

4-4 CLN-TREM

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BLACK 2X12	BLACK 2X10	4.4	4.4	4.4	1.3	3.7	10	6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	SPREAD	DEPTH	NR
COMP	1.1	6.8	3.2	TREMOLO	4.2	0	3.2	4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	5.6	2	3.4	

5-1 DIRT

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
RECTO	US V30 4X12	5.3	5.6	5.2	3.4	7.7	4.7	4.4
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	6.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	

5-2 MR.CLEAN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BOUTIQUE CL	VOX AD412	4.5	2.9	7.6	3.1	3.4	10	2.7
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.23	6.4	6.1	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	2	1.4	1.8	

5-3 UNCHAIN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
US HIGAIN	UK T75 4X12	2.6	7.9	8.8	1.5	4.2	5.7	2.6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
TUBE OD	6.1	8.1	4.8	FLANGER	0.145	0.6	7.1	8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	250	4.4	2.8	ROOM	2.1	3.1	1.8	

5-4 SLASHED

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BOUTIQUE OD	UK H30 4X12	3.8	3.9	9.7	2.8	7.4	10	2.2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TUBE OD	7.8	5.2	4.7	OFF	—	—	—	7
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	334	4.4	4.8	ROOM	4	2.5	5.2	

6-1 SKYNYRD

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 1X12	TWEED 1X12	4.8	5.3	7.6	2.9	2.9	10	7.8
PEDAL	SENS	ATTACK	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
COMP	1.3	4.4	3.9	PHASER	0.23	0	7.1	4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	7.4	1.9	3	

6-2 ZEP

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK68P	UK H30 4X12	8.8	0.6	2.1	8.6	10	10	1.8
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	7
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	ROOM	6.4	4	5.7	

6-3 VULGAR

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
US HIGAIN	VOX AD412	2.4	6.4	8.9	4.5	10	5.2	3.3
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TREBLE BOOST	3.9	9.2	7.1	CHORUS	0.48	3.6	1.8	7.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	

6-4 BLUES

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BOUTIQUE OD	UK T75 4X12	4.6	4.5	6.3	2.6	3	8.1	3.3
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.27	4.2	3.8	6.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	PLATE	2.5	1.9	1.8	

7-1 TASTY-FL

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 4X10	TWEED 4X10	3.7	9.7	8.4	1.8	2.2	10	7
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
COMP	1.9	1	3.9	FLANGER	0.19	1.7	7.4	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	PLATE	2.5	2.1	1.8	

7-2 EC BADGE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK 68P	UK H30 4X12	2.8	1.8	6.7	1.7	2.3	10	5.3
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	TIME	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	ROTARY	0.8	5	5	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	7.7	4.1	2.6	

7-3 SABBATH

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
US HIGAIN	UK T75 4X12	3.2	0.3	8.9	2.7	10	10	2.9
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TREBLE BOOST	4.1	9.2	7.1	OFF	—	—	—	6.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	

7-4 CARLOS

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
RECTO	TWEED 1X12	4	3.1	8	4.4	6.3	10	2.2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TUBE OD	3.2	7.7	7.5	CHORUS	0.23	6.4	6.1	6.2
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	PLATE	3.6	3.6	5.5	

8-1 FUNKY

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BLACK 2X12	BLACK2X10	3.6	6.7	6.4	1	2.6	10	7.7
PEDAL	SENS	ATTACK	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
COMP	1	4.4	3.7	PHASER	0.96	1.4	7.1	3.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	244	4.4	0	PLATE	1.8	2	4.4	

8-2 MR.SCARY

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
US HIGAIN	VOX AD412	5.3	4.8	6.8	1	7.6	4.5	4.6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
MULTI HEAD	339	4	1.7	ROOM	5.2	3.8	5.6	

8-3 JIMIFUZZ

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK 68P	UK H30 4X12	6.5	4.4	3.3	10	6	10	1.6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
FUZZ	4.1	10	7.5	PHASER	0.27	0	7.1	3.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	PLATE	1.8	3.4	2.8	

8-4 FOLK

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BLACK 2X12	BLACK 2X12	3.7	4.8	5.3	4.4	2.8	8.2	8
PEDAL	BASS	BODY	TREBLE	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
ACOUSTIC	5.2	8.6	3.7	CHORUS	0.14	7.9	2.1	2
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	ROOM	7.7	6.1	5.3	

9-1 OLDGUY

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 4X10	BLACK 2X10	3.5	5.9	2.8	6.6	1.8	10	7
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.23	6.4	6.1	2
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	3.6	3.3	4.2	

9-2 CRUNCH 1

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC30TB	VOX AC30	4.9	5.9	2.3	5.2	6.5	10	3
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	3.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	3.6	3.3	4.2	

9-3 CRUNCH 2

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC15TB	VOX AC30	7.3	5.9	10	3.8	7.4	10	2.2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.23	6.4	6.1	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	3.6	3.3	4.2	

9-4 SOLO

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK 68P	UK H30 4X12	8.8	8.2	2.9	8.7	8.7	10	2
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TUBE OD	5.3	10	7.5	OFF	—	—	—	7.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	470	5.2	4.1	PLATE	3.6	3.3	4.2	

10-1 VOXMAN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC30TB	VOX AC30	7.2	6.7	6.1	10	6.2	7.8	2.4
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	OFF	—	—	—	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	250	3.3	3.2	PLATE	4.1	3.7	2.9	

10-2 WET AC15

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC15	VOX AC15	10	0	6.6	10	4.6	7.9	2.6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	RESO	DEPTH	NR
TREBLE BOOST	10	5	8.2	FLANGER	0.26	3.1	0	2.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
MULTI HEAD	351	3.8	2	OFF	—	—	—	

10-3 HEAVEN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BOUTIQUE CL	VOX AD412	5.1	8.9	9.1	3.7	6.2	8.9	1.4
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.13	4.8	3.3	2.4
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	400	4.2	5.2	PLATE	3.7	6	3.7	

10-4 UK-US

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK 68P	US V30 4X12	4.9	0	6.4	0	8	8.9	2.9
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TUBE OD	10	5.1	3.5	OFF	—	—	—	6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	227	3.8	2.2	ROOM	7.4	4.2	3.2	

11- 1 WILDMAN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK '80S	US V30 4X12	0	2.1	8.1	6.3	9.2	7.7	3.7
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
TUBE OD	5.8	7.5	5.2	CHORUS	0.26	3.7	1.9	6.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	539	5.8	0.2	OFF	—	—	—	

11-2 THEATER

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BOUTIQUE CL	VOX AD412	7.4	6.1	10	7.1	4.3	8	2.4
PEDAL	BASS	BODY	TREBLE	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
ACOUSTIC	7.8	8.1	2.6	CHORUS	0.54	5	2.5	3.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
DELAY	590	5.4	2.1	PLATE	6.2	7	6	

11-3 JOSHUA

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
AC3OTB	VOX AC30	7.7	5	7.4	6.3	6.9	7.9	2.6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	1.8	3.5	1.4	4.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	551	3.2	5.9	PLATE	2.6	3	5	

11-4 POLICE

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
UK 68P	UK H30 4X12	6.7	8.2	10	7	4.1	9.2	3
PEDAL	SENS	ATTACK	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
COMP	3.6	2.5	3.8	CHORUS	0.2	6.4	4.6	6.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
DELAY	860	2.5	1.1	PLATE	3.1	4	0.7	

12-1 JOHNNY $

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 4X10	TWEED 4X10	5	4.9	8.1	7.1	2.4	8	6.1
PEDAL	BASS	BODY	TREBLE	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
ACOUSTIC	5.6	8	3.6	OFF	—	—	—	3
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	0	5.2	2.1	

12-2 JAZZMAN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BLACK 2X12	BLACK 2X12	1.3	6.1	9.2	0	3.6	7	6
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	CHORUS	0.17	6.8	5.7	2
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	ROOM	9.3	7.1	4.8	

12-3 TEXTREM

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
TWEED 1X12	TWEED 1X12	7	4.1	6.4	5.2	5.6	4	8
PEDAL	DRIVE	TONE	LEVEL	**MOD**	SPEED	SPREAD	DEPTH	NR
OFF	—	—	—	TREMOLO	4	6.3	3.9	2.8
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
OFF	—	—	—	SPRING	2.3	5	2.8	

12-4 OCTAMAN

AMP	**CABINET**	TREBLE	MIDDLE	BASS	PRESENCE	GAIN	VR GAIN	CH VOLUME
BOUTIQUE OD	BLACK 2X10	6.7	4.2	6.8	3.5	5	10	2.4
PEDAL	1 OCTAVE	DIRECT	2 OCTAVE	**MOD**	SPEED	MIX	DEPTH	NR
OCTAVE	4.1	9.5	2.2	OFF	—	—	—	7.6
DELAY	TIME	MIX	FEEDBACK	**REVERB**	LO DAMP	MIX	HI DAMP	
TAPE ECHO	1024	7.4	3	PLATE	3.6	3	4.1	

索引

トップ・パネル

2.1 2.5 4 4.1

LEVEL L/MONO OUTPUT R LINE AMP S/P DIF OUT VOX BUS IN MIDI OUT STANDBY ON ~AC9V

VOX Valvetronix

ToneLab

2 2.2 2.4 2.3

PEDAL: AUTO WAH, U-VIBE, OCTAVE, VOX WAH, TREBLE BOOST, ACOUSTIC, TUBE OD, COMP, FAT OD, OFF, FUZZ

MODULATION: CHORUS, FLANGER, PHASER, TREMOLO, ROTARY

DELAY: DELAY, TAPE ECHO, MULTI HEAD

REVERB: SPRING, ROOM, PLATE

TAP HOLD: EFFECT BYPASS

PEDAL DRIVE TONE LEVEL
MOD SPEED MIX DEPTH
DELAY FINE MIX FEEDBACK
REVERB LO DAMP MIX HI DAMP

BANK ENTER CANCEL UTILITY GLOBAL WRITE TUNER MANUAL VALUE PREV–MENU–NEXT ◄–CURSOR–► 1 2 3 4

3 バンク / マニュアル / ライト / チューナー / チャンネル・セクション

3.1 3.9 3.8 3.10 3.5 3.6 3.7 3.2 3.4 3.3

EL34 EL84 6V6 KT66 5881 6L6 ORIG EDIT

1 1.1 1.2 1.3 1.4 1.5 1.6 1.7 1.8 1.9

AMP: AC30TB, UK BLUES, UK 68P, AC30, UK '80S, AC15TB, UK '90S, AC15, UK MODERN, TWEED 4x10, RECTO, TWEED 1x12, US HIGAIN, BLACK 2x12, BOUTIQUE CL, BOUTIQUE OD

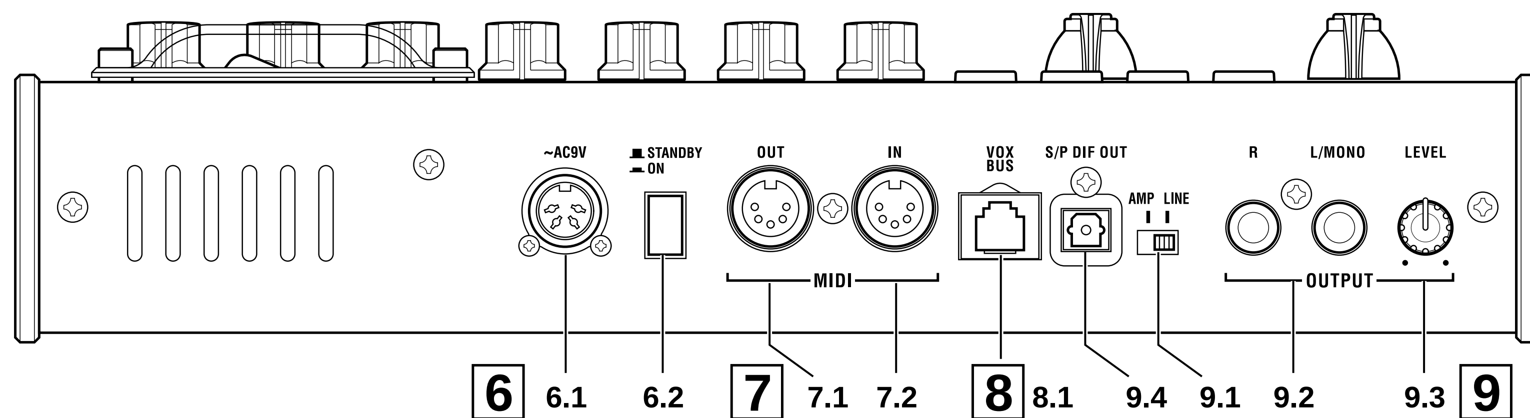
CABINET: VOX AC15, VOX AC30, VOX AD412, BLACK 2x12, UK H30 4x12, BLACK 2x10, UK T75 4x12, TWEED 4x10, US V30 4x12, TWEED 1x12, OFF

TREBLE MIDDLE BASS PRESENCE GAIN VR GAIN CH VOLUME

▼PHONES INPUT▼

5 5.1 5.2

リア・パネル



プログラム・シート

設定をメモするためのシートです。好みの音が作れたらその設定を書き留めましょう。
下のプログラム・シートはコピーして使用することをおすすめします。
DELAY TIME (FINE [1]で確認できます), UTILITYの設定も忘れずに書き留めてください。

PROGRAM NAME:

PEDAL: AUTO WAH / U-VIBE / OCTAVE / VOX WAH / TREBLE BOOST / ACOUSTIC / TUBE OD / COMP / FAT OD / OFF / FUZZ
PEDAL DRIVE / TONE / LEVEL

MODULATION: CHORUS / FLANGER / PHASER / TREMOLO / ROTARY
MOD SPEED / MIX / DEPTH

DELAY: DELAY / TAPE ECHO / MULTI HEAD
DELAY FINE / MIX / FEEDBACK
TAP
HOLD: EFFECT BYPASS

REVERB: SPRING / ROOM / PLATE
REVERB LO DAMP / MIX / HI DAMP

AMP: AC30TB / UK BLUES / UK 68P / AC30 / UK '80S / AC15TB / UK '90S / AC15 / UK MODERN / TWEED 4x10 / RECTO / TWEED 1x12 / US HIGAIN / BLACK 2x12 / BOUTIQUE CL / BOUTIQUE OD

CABINET: VOX AC15 / VOX AC30 / VOX AD412 / BLACK 2x12 / UK H30 4x12 / BLACK 2x10 / UK T75 4x12 / TWEED 4x10 / US V30 4x12 / TWEED 1x12 / OFF

TREBLE / MIDDLE / BASS / PRESENCE
GAIN / VR GAIN / CH VOLUME

NR (NOISE REDUCTION):
TAP TEMPO:
NOTE:

PROGRAM NAME:

PEDAL: AUTO WAH / U-VIBE / OCTAVE / VOX WAH / TREBLE BOOST / ACOUSTIC / TUBE OD / COMP / FAT OD / OFF / FUZZ
PEDAL DRIVE / TONE / LEVEL

MODULATION: CHORUS / FLANGER / PHASER / TREMOLO / ROTARY
MOD SPEED / MIX / DEPTH

DELAY: DELAY / TAPE ECHO / MULTI HEAD
DELAY FINE / MIX / FEEDBACK
TAP
HOLD: EFFECT BYPASS

REVERB: SPRING / ROOM / PLATE
REVERB LO DAMP / MIX / HI DAMP

AMP: AC30TB / UK BLUES / UK 68P / AC30 / UK '80S / AC15TB / UK '90S / AC15 / UK MODERN / TWEED 4x10 / RECTO / TWEED 1x12 / US HIGAIN / BLACK 2x12 / BOUTIQUE CL / BOUTIQUE OD

CABINET: VOX AC15 / VOX AC30 / VOX AD412 / BLACK 2x12 / UK H30 4x12 / BLACK 2x10 / UK T75 4x12 / TWEED 4x10 / US V30 4x12 / TWEED 1x12 / OFF

TREBLE / MIDDLE / BASS / PRESENCE
GAIN / VR GAIN / CH VOLUME

NR (NOISE REDUCTION):
TAP TEMPO:
NOTE:

ToneLab

取扱説明書

Ⓙ①



VOX AMPLIFICATION LTD. 9 Newmarket Court, Kingston, Milton Keynes, MK10 OAU, UK http://www.voxamps.co.uk/

Printed in China